

Beyond testing, beyond limits, for a sustainable future together

アンリツ株式会社

2024年2月



東証 プライム
証券コード：6754
<https://www.anritsu.com>

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

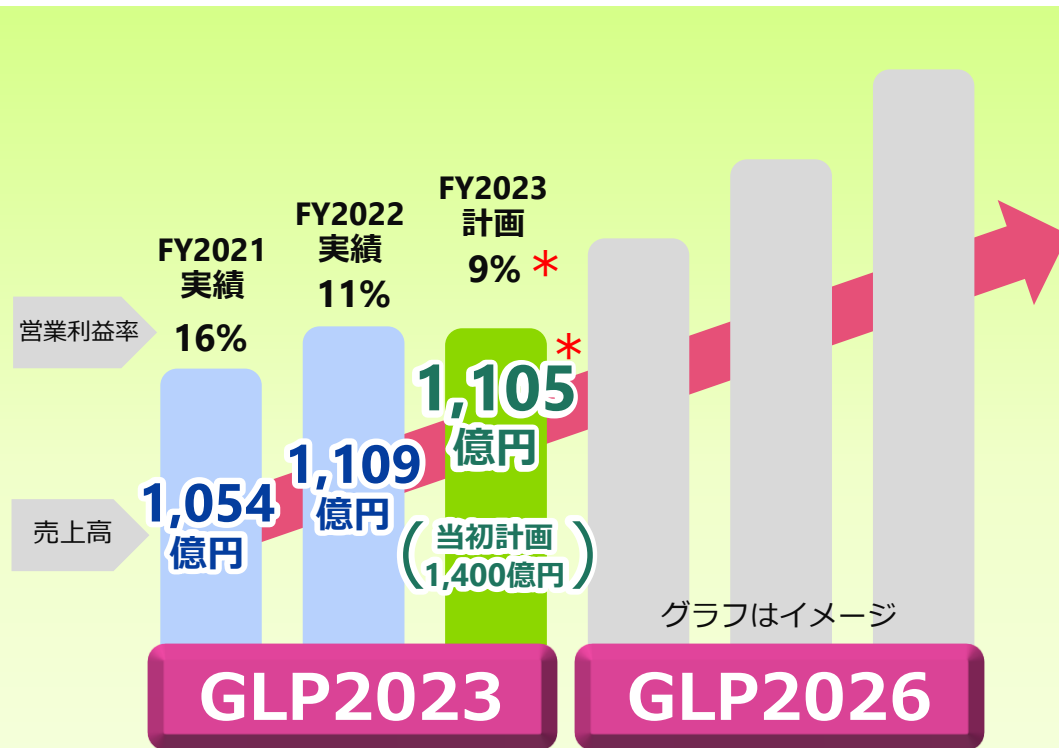
なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目 次

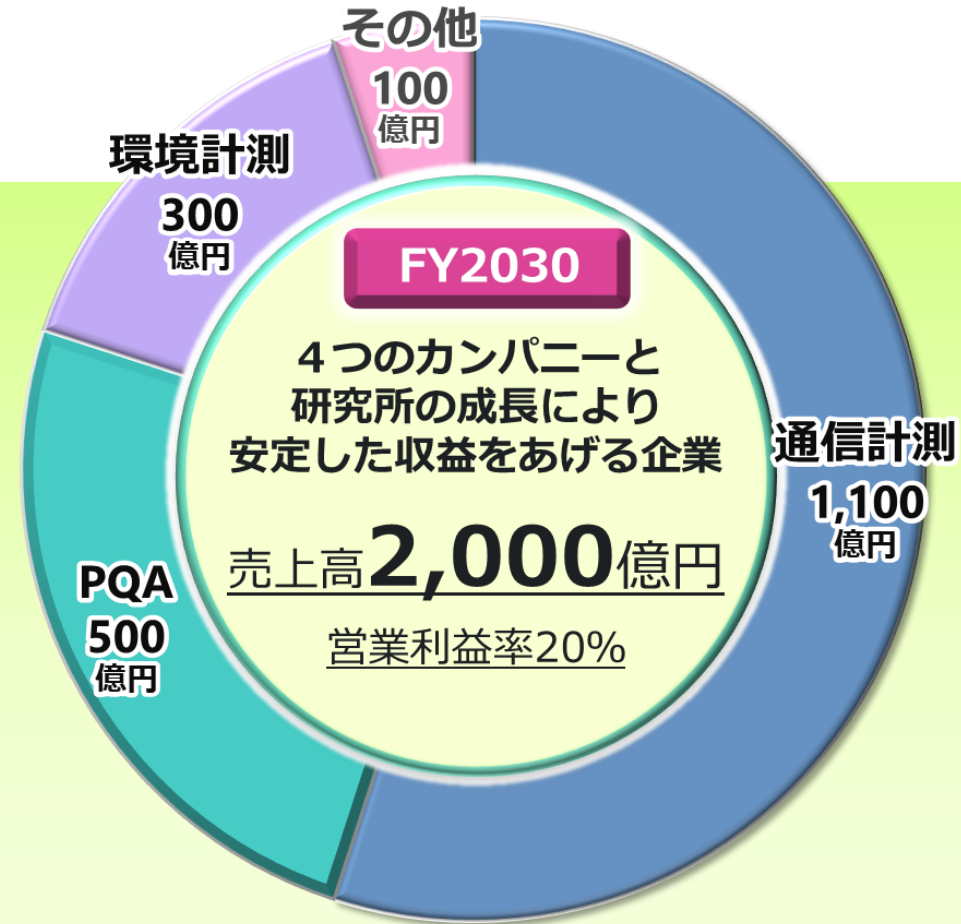
1. 中期経営計画 GLP2023
 2. 事業概要
 3. 通信計測事業
 4. PQA事業
 5. ESGへの取り組み
 6. 2024年3月期第3四半期 連結決算概要
- Appendix

1. 中期経営計画 GLP2023

「はかる」を超える。限界を超える。共に持続可能な未来へ。



GLP2023の進捗と計画値の変更



FY2030の目指す姿

(M&Aによる成長を含む)

通信計測成長ドライバ

- 6G、IOWN
- 5G利活用
自動運転、スマートシティ
スマートファクトリー、
メタバース、衛星通信
- O-RAN、V-RAN
- 次世代コンピューティング

PQA成長ドライバ

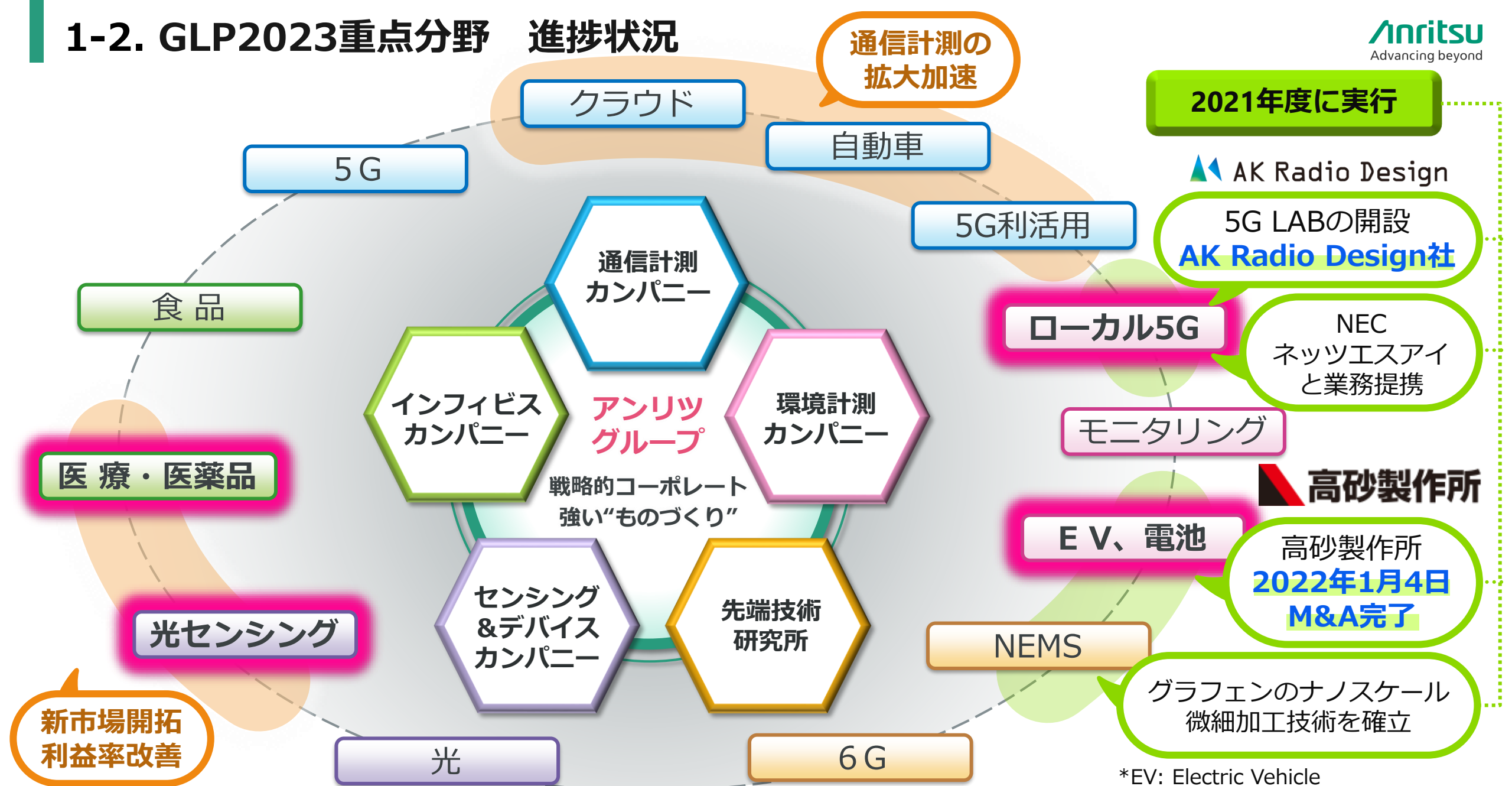
- 食品市場での
グローバル事業拡大
- 医薬品市場への浸透
- AIを活用した
品質検査ビジネス

環境計測成長ドライバ

- EV・電池、
社会インフラの脱炭素化
- 産業DX、ローカル5G、
スマートファクトリー
- 社会インフラのスマート化
- グローバル展開

* 2024年1月30日発表の数値に更新

1-2. GLP2023重点分野 進捗状況



*インフィビスカンパニー：PQA事業の推進

*EV: Electric Vehicle

*NEMS: Nano Electro Mechanical Systems

1-3. 売上高・営業利益計画（1/2）

指標		FY2020実績	FY2021実績	FY2022実績	FY2023計画*
売上高		1,059 億円	1,054 億円	1,109 億円	1,105 億円
営業利益		197 億円	165 億円	117 億円	101 億円
営業利益率		19 %	16 %	11 %	9 %
当期利益		161 億円	128億円	93億円	80億円
ROE		16 %	11 %	8 %	7 %
T&M 事業	売上高	748 億円	733 億円	728 億円	700 億円
	営業利益	177 億円	152 億円	109 億円	85 億円
	営業利益率	24 %	21 %	15 %	12 %
PQA 事業	売上高	214 億円	220 億円	248 億円	260 億円
	営業利益	13 億円	12億円	13 億円	16 億円
	営業利益率	6 %	5 %	5 %	6 %

GLP2023

* : FY2023の計画は、2024年1月30日発表の数値に更新しております。

FY2021 実績為替レート

FY2022 実績為替レート

FY2023 1Q-3Q実績為替レート

FY2023 4Q想定為替レート

: 1米ドル=112円、1ユーロ=131円

: 1米ドル=135円、1ユーロ=141円

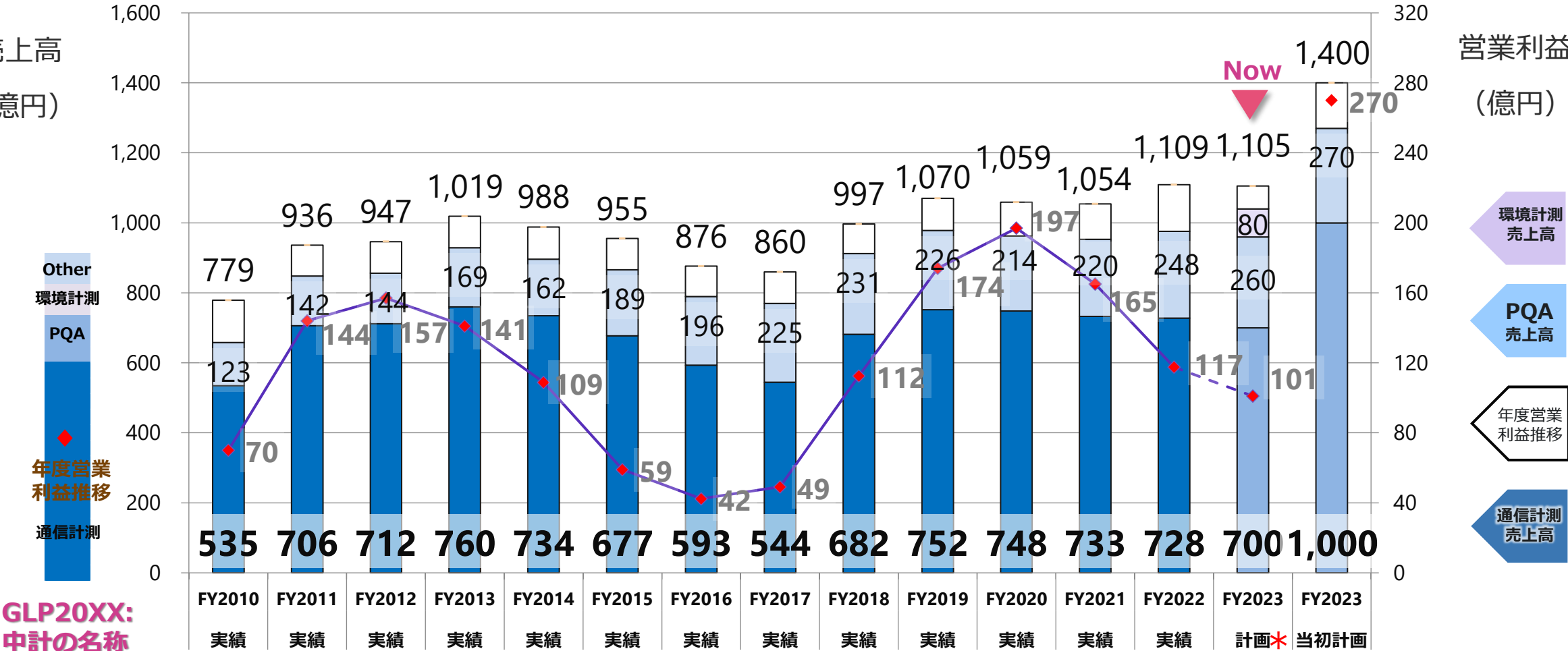
: 1米ドル=143円、1ユーロ=155円

: 1米ドル~140円、1ユーロ=150円

1-4. 売上高・営業利益計画（2/2）

売上高
(億円)

営業利益
(億円)



GLP20XX:
中計の名称

営業利益率	連結	9%	15%	17%	14%	11%	6%	5%	6%	11%	16%	19%	16%	11%	9%	19%
	T&M	9%	20%	21%	17%	12%	7%	4%	4%	14%	20%	24%	21%	15%	12%	23%
	PQA	5%	4%	6%	7%	5%	6%	7%	9%	7%	6%	6%	5%	5%	6%	10%
GLP計画		GLP2012		GLP2014			GLP2017			GLP2020			GLP2023			

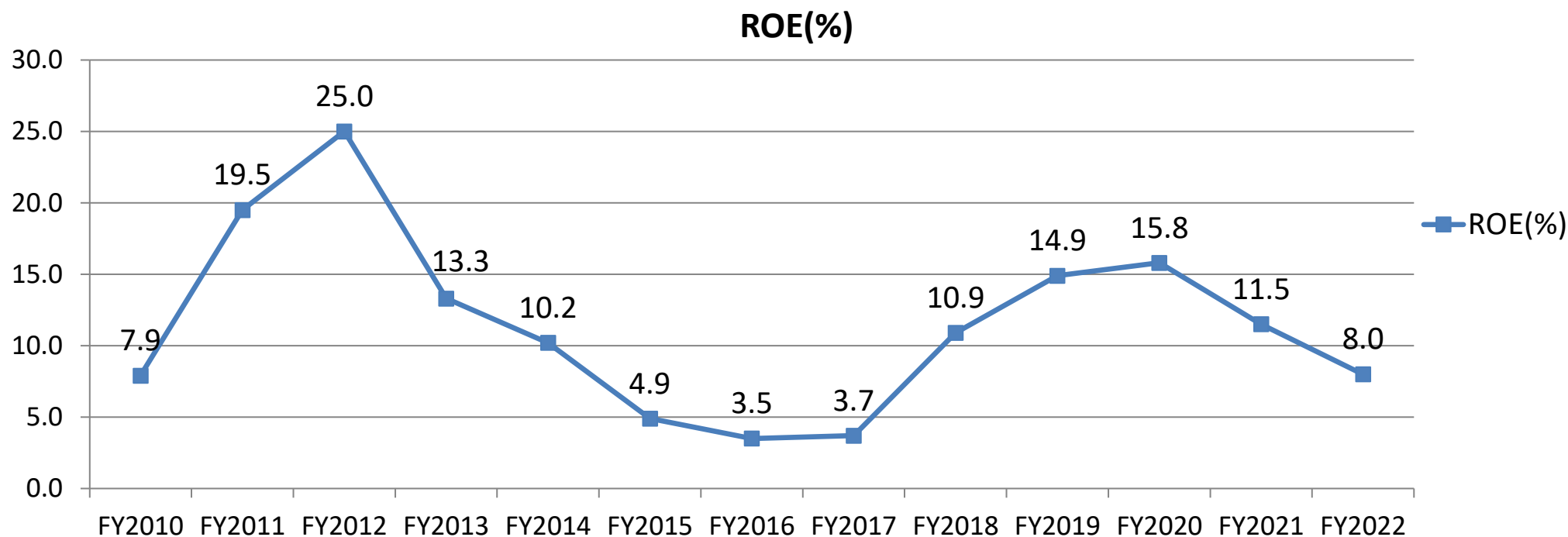
* 2024年1月30日発表の数値に更新

1-5. GLP2023 : 財務戦略 (1/3)

- ◆ 成長性・収益性・効率性の重視
- ◆ 成長に向けた投資を強化
- ◆ 株主還元の充実

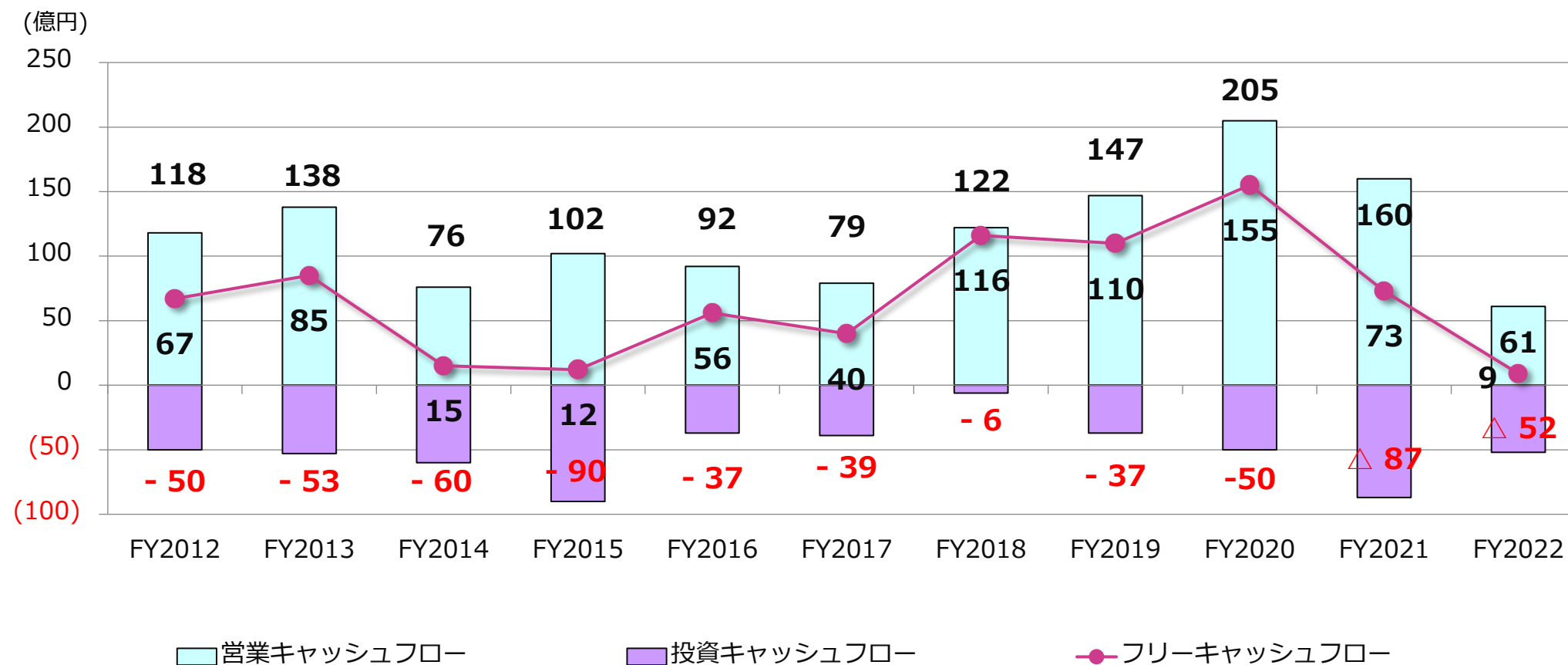
企業価値KPI

ROE $\geq$ 15%



◆ キャッシュフロー経営の推進

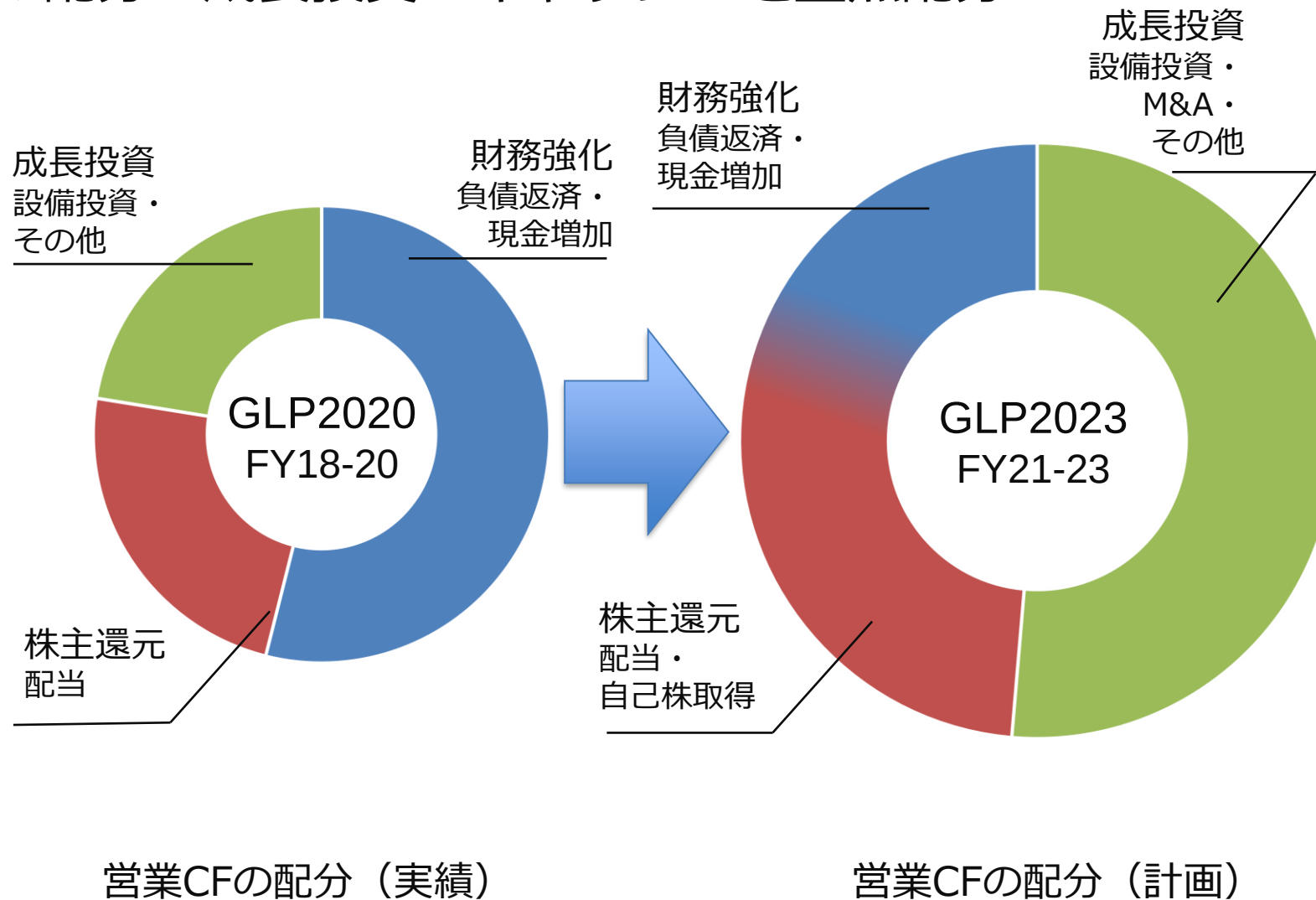
利益体質の強化と運転資本の効率化促進で営業CFを改善



キャッシュフローの推移

1-7. GLP2023 : 財務戦略 (3/3)

営業CFの配分：成長投資へキャッシュを重点配分



営業CF221億円＋手元現金166億円の
キャッシュアロケーション実績

FY2021-FY2022実績

成長投資：
139億円(36%)
M&A（高砂製作所）：40億円
設備投資・その他：99億円

株主還元：
214億円 (55%)
配当：114億円
自己株取得：100億円

財務強化：
34億円(9%)
負債返済

▶ 利益処分に関する基本方針

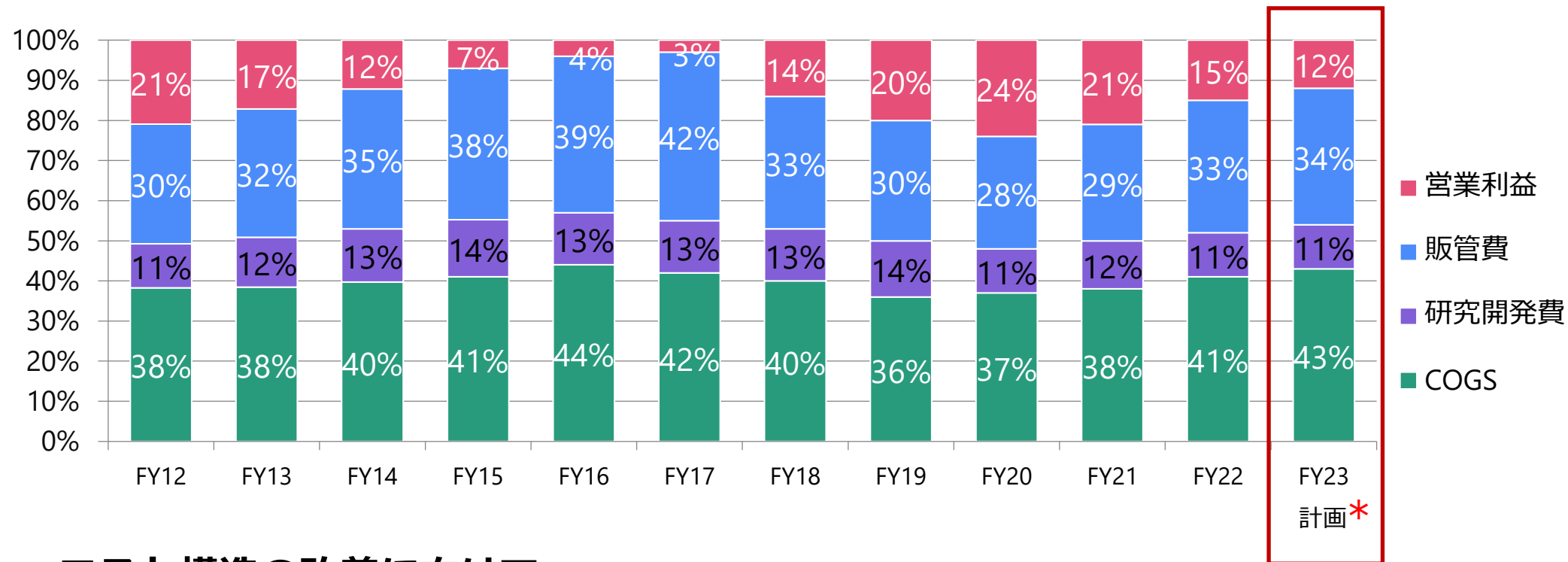
当社は、株主の皆様に対する利益還元について、連結業績に応じるとともに、総還元性向を勘案した利益処分を行うことを基本方針としております。

剰余金の配当については、連結当期利益の上昇に応じて、親会社所有者帰属持分配当率（DOE：Dividend On Equity）を上げることを基本にしつつ、連結配当性向50%以上（*1）を目標としており、株主総会決議もしくは取締役会決議により、期末配当及び中間配当の年2回の配当を行う方針です。

自己株式の取得は、企業環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するために、財務状況、株価の動向等を勘案しながら、必要に応じ適切に実施していく方針です。

（*1）上記方針に定める連結配当性向の目標値は、2023年4月28日開催の取締役会の決議に基づく同日付の改定内容であり、改定前（当連結会計年度末日時点）においては連結配当性向30%以上を目標としておりました。

1-9. 通信計測事業：収益構造モデル



コスト構造の改善に向けて

- 高付加価値ソリューションの投入(サポートサービス、ソフトウェア)
- 開発 ROI & ROIC マネジメントの徹底(*1)
- 競争力の維持・向上：顧客動向の変化に対応した組織体制と人的資源の最適配分

*1 KPI：開発ROI（売上総利益／開発投資額） ≥ 4.0

1-10. GLP2023におけるサステナビリティ目標（SDGs）の進捗状況

	KPI	GLP2023の目標	2022年度実績	進捗
E 環境	● 温室効果ガス*1 (Scope1+2)	2015年度比 23%削減	6.7%削減	△
	● 温室効果ガス*1 (Scope3)	2018年度比 13%削減	21.8%削減	◎
	● 自家発電比率（PGRE 30*2）	13%以上（2018年度電力消費量を基準）	7.2%	△
S 社会	● 女性の活躍推進	女性管理職比率15%以上	10.5%（グローバル、2023年3月末）	○
	● 高齢者活躍推進	70歳までの雇用及び新処遇制度確立	70歳までの雇用及び新処遇制度運用開始	◎
	● 障がい者雇用促進	職域開発による法定雇用率2.3%達成	障がい者雇用率2.36%（2023年3月末）	◎
	● サプライチェーンDDの強化	3年累積10社以上	6社実施（2年累計で12社）	◎
	● CSR調達に係るサプライヤへの情報発信2回/年以上、教育1回/年以上		情報発信3回、教育1回実施	◎
G ガバナンス	● 取締役会の多様性の推進	社外取締役比率50%以上	社外取締役比率50%継続（10人中5人）	◎
	● 海外子会社の内部統制構築	全海外子会社が統制自己評価（CSA）の基準を満たす	9割の項目で基準を満たす会社：87% （項目数：181）	○

*1 温室効果ガスに関するGLP2023の目標値及び実績値に関しては、2022年1月に当社の子会社となった高砂製作所の数値は含みません。

*2 PGREは、Private Generation of Renewable Energy（再エネ自家発電）の略であり、「30」は達成時期の2030年ごろと自家発電比率目標値30%程度を意味します。

2. 事業概要

2-1. 事業概要

通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展

- ◆ モバイル市場 : 5G、5G利活用
- ◆ ネットワーク・インフラ市場 : データセンター、光NW、無線NW
- ◆ エレクトロニクス市場 : 基地局建設保守、電子部品、無線設備



PQA事業

食の安全・安心

- ◆ X線検査機
- ◆ 金属検出機
- ◆ 重量選別機



環境計測事業

- ◆ EV・バッテリー向け試験
- ◆ ローカル5G、プライベート5G
- ◆ 道路、ダム・河川等のモニタリング



その他

- ◆ センシング & デバイス
- ◆ その他



(セグメント別売上比率)

2023年3月期 実績 (連結) : 1,109億円

通信計測 66%			PQA 22%	環境計測 6%	その他 6%
モバイル 51%	ネットワーク・インフラ 30%	エレクトロニクス 19%			

2024年3月期 (4-12月) 実績 (連結) : 778億円

通信計測 65%			PQA 23%	環境計測 6%	その他 6%
モバイル 43%	ネットワーク・インフラ 36%	エレクトロニクス 21%			

(通信計測事業 地域別売上比率)

2023年3月期 実績

日本 15%	アジア他 43%	米州 24%	EMEA 18%
--------	----------	--------	----------

2024年3月期 (4-12月) 実績

日本 14%	アジア他 38%	米州 28%	EMEA 20%
--------	----------	--------	----------

PQA : Products Quality Assurance

2-2. 通信計測事業

提供するソリューション：スマートフォン開発

スマートフォンの開発において、最新の3GPP規格に適合させるために、アンリツの測定器が擬似的な基地局となり、「無線」および「通信プロトコル」動作のデバッグを実施する環境を提供。スマートフォン開発エンジニアは、自身の設計の動作検証が可能。

● 実環境



擬似化

● 試験環境



開発中のスマートフォンは、実環境の基地局に接続することはできません。アンリツのMT8000Aは、擬似的に基地局とネットワークをエミュレートすることで、開発中のスマートフォンとつながり、エンジニアのデバッグをサポートします。

チップ開発・商用化端末開発

チップセットメーカーの
技術検証



端末メーカーの結合・
性能評価



大勢のエンジニアが、各自の開発担当箇所をMT8000Aを使用してデバッグします。

商用化端末開発



端末メーカー／テストハウス
規格適合性試験

最後は、規格適合性試験システムで、開発したスマートフォンが3GPPの規格に適合しているか検証し、商品化します。

事業者
受入試験

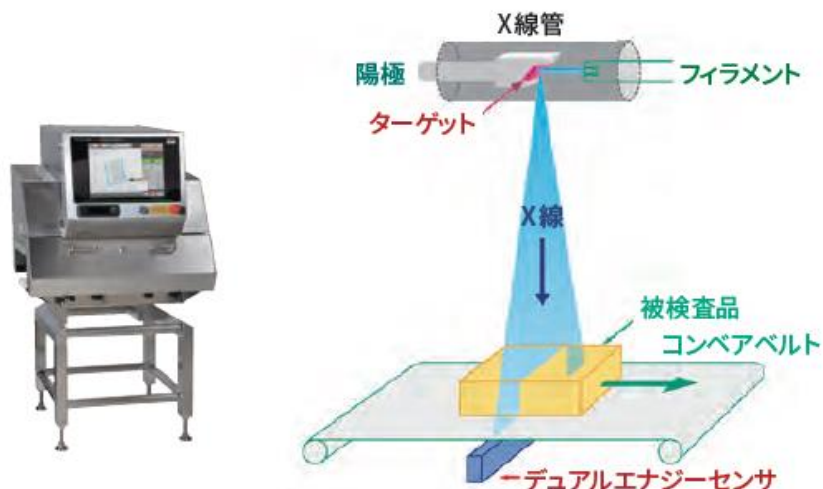


2-3. PQA 事業

提供するソリューション：食の安全・安心

検査品の内部を透視するX線検査で、さまざまな食品の生産ラインにおいて、異物だけでなく、検査品の形状不良や数量不足の検査が可能。

より確実で高度な品質管理に向けて、独自のソリューションを提供。



鶏肉の残骨検査



異物検査

食品などに含まれる石やプラスチック、残骨などを検出します。



欠品検査

お弁当のおかずに欠品がないか検査します。

ポテトサラダパウチ包装での検査。
かみこんだ食品はX線をシール部より多く吸収。



かみこみ検査

食品のパッケージのシール部分に、内容物がかみこんでいないかを検査します。

■ 先端技術を導入することで高感度検出を実現

フィルタリング技術

透過画像に施す信号処理（フィルタリング）を組み合わせで実施することで異物信号の抽出能力を向上

画像処理技術

信号処理と画像解析アルゴリズムの高度化により、不適切部分を正確に指示

2-4. 環境計測事業の対象領域

カーボンニュートラル

EV・電池の性能向上と普及、
社会インフラの脱炭素化



産業のデジタル変革

省人化や生産性の向上に向けた
ローカル5G・デジタル技術活用
(スマートファクトリーなど)



社会インフラのレジリエンス

通信・道路・電力・水道・鉄道
など社会インフラ監視の高度化



アンリツグループのコンピテンシーを融合して社会課題の解決に貢献

エネルギー
制御

計測

情報通信

2-5. 環境計測事業のソリューション例



EV・バッテリー開発



EVパワートレイン
エミュレーション

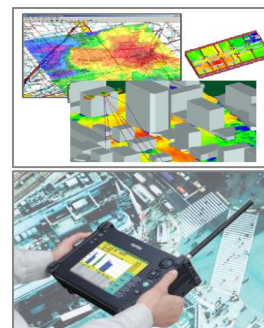


バッテリー充放電
試験システム

EVの主要部品であるバッテリー、インバータ、モーターの性能や信頼性評価に用いられる各種試験装置を提供



スマートファクトリー



ローカル5G
導入・運用・活用
支援サービス



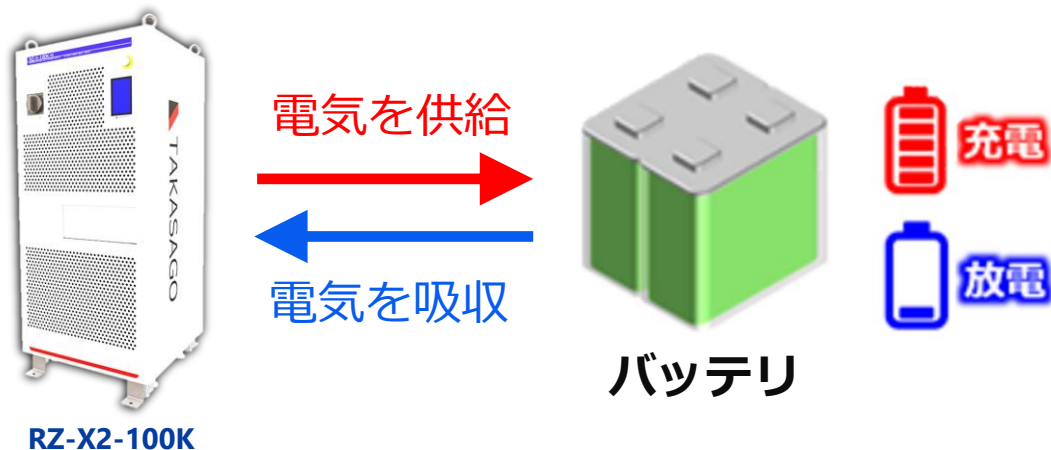
製造DX支援システム

工場の省人化や生産性向上に向けて
ローカル5Gやデジタル技術の導入と活用を支援

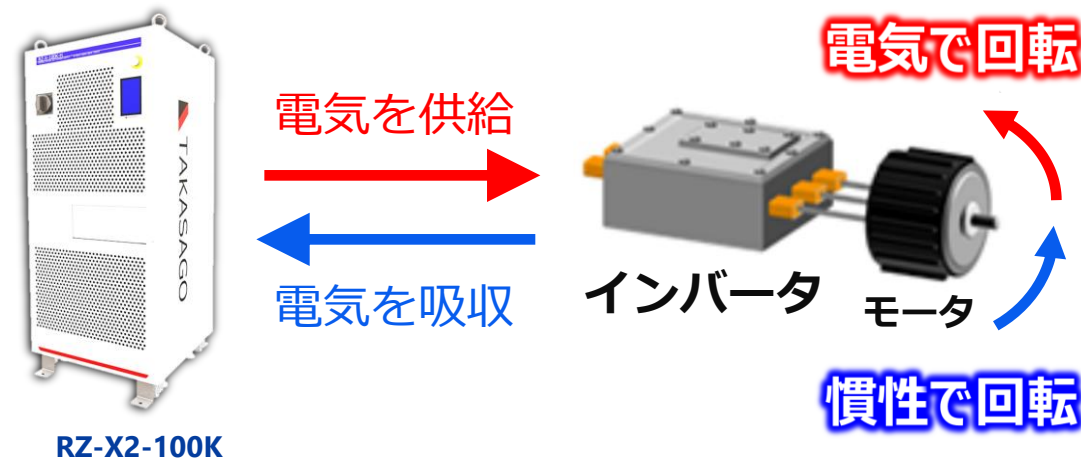
2-6. 製品紹介：高性能電源ソリューション

EVのパワートレイン評価やバッテリーの試験をサポートする高性能電源

バッテリー充放電試験



インバータ特性試験



■ 特徴

- モータ、インバータの特性試験やバッテリーの充放電試験に1台で対応
- 高精度、高速応答、高安定、高効率な電力制御により実環境を模擬した評価が可能

■ 対象顧客

- 自動車メーカー、自動車部品メーカー、バッテリーメーカー

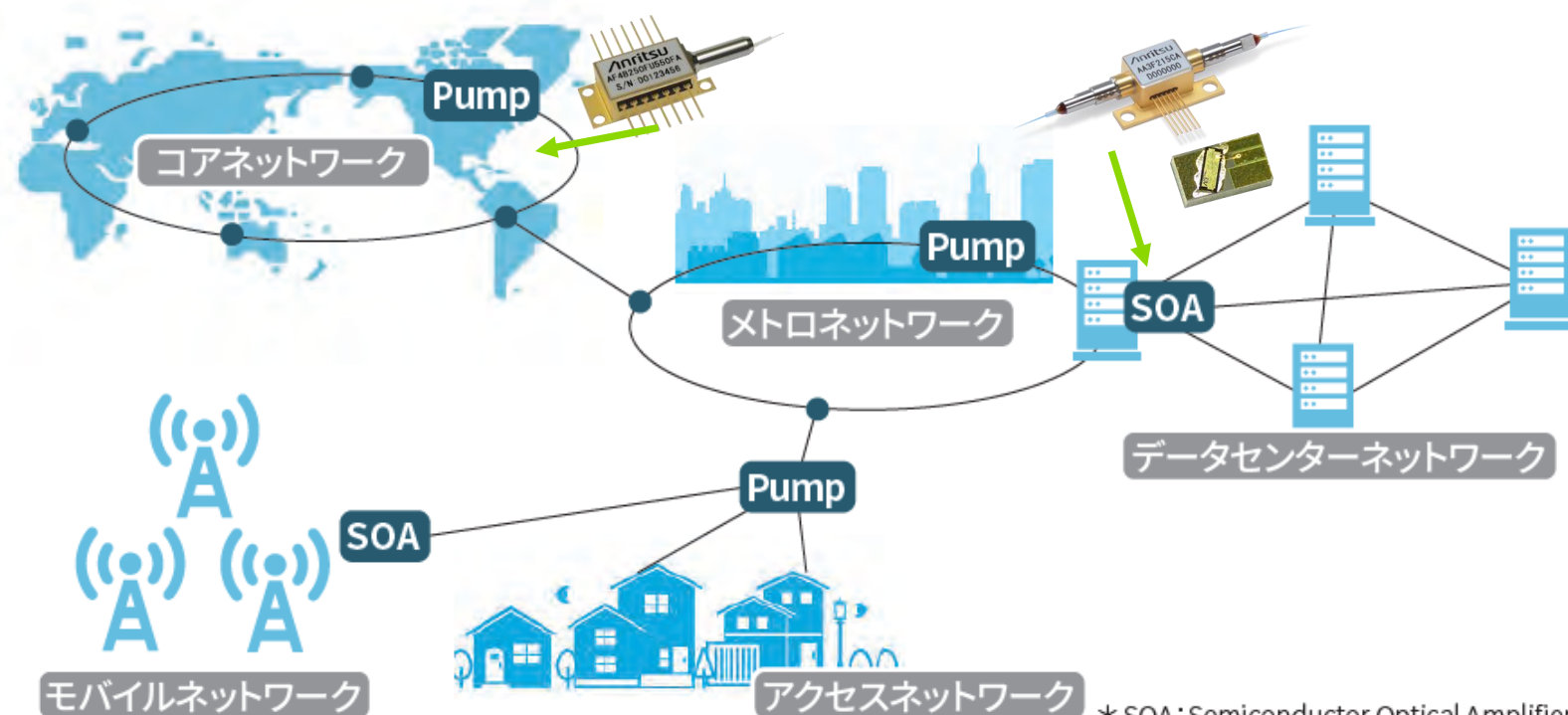
2-7. センシング&デバイス事業

提供するソリューション

- ①光通信市場：光信号をそのまま増幅する光ファイバーアンプに用いられる励起用の半導体レーザー、光信号の劣化を防ぐ目的で光トランシーバーに搭載される半導体光増幅デバイス
- ②センシング市場：眼科医用機器光源、ガス漏洩検知用機器の光源

通信

光ファイバーアンプ、光トランシーバーなどに用いられる励起用半導体レーザー (Pumpレーザー) や半導体光増幅デバイス (SOA) などの製品が通信ネットワークを支えています



* SOA: Semiconductor Optical Amplifier

2-8. 通信計測の今期の業績ドライバ

モバイルビジネス（5G/5G利活用市場）

- チップセットベンダーの車載用、RedCap用など、5G利活用への投資
- AR/VR向けデバイス開発への投資
- インド・東南アジアの5G開発・製造拠点への投資



RedCap開発用の
ラジオコミュニケーション
テストステーション MT8000A

ネットワーク・インフラビジネス（光・デジタル市場）

- 生成AI、グリーンデータセンターの増加に伴う400GE、800GE向け需要増
- データセンターの増加に伴う光ネットワーク、海底ケーブルの増強



800G光トランシーバPAM4
測定ソリューション
MP2110A



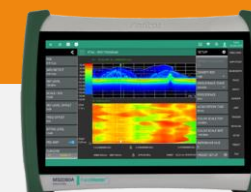
海底ケーブルの検証用
コヒーレントOTDR
MW90010B

エレクトロニクスビジネス

- 6G研究開発向けのVNA需要の拡大
- 政府系の業務用無線需要の拡大



6G研究開発向け
広帯域ベクトルネットワークアナライザ
ME7838シリーズ



各種無線設備のフィールド検証用
多機能スペクトラムアナライザ
MS2080A

2-9. PQAおよび環境計測の今期の業績ドライバ

PQA

- 欧米の食肉市場における自動化、省人化需要の拡大
- インドでの医薬品市場の立上り



食肉市場向け
デュアルエナジーセンサ搭載
X線検査機 XR75



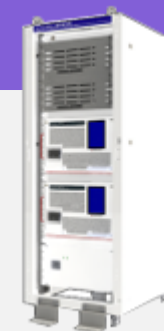
医薬品向け
カプセルチェッカー

環境計測

- EV・バッテリー向け試験装置の需要増



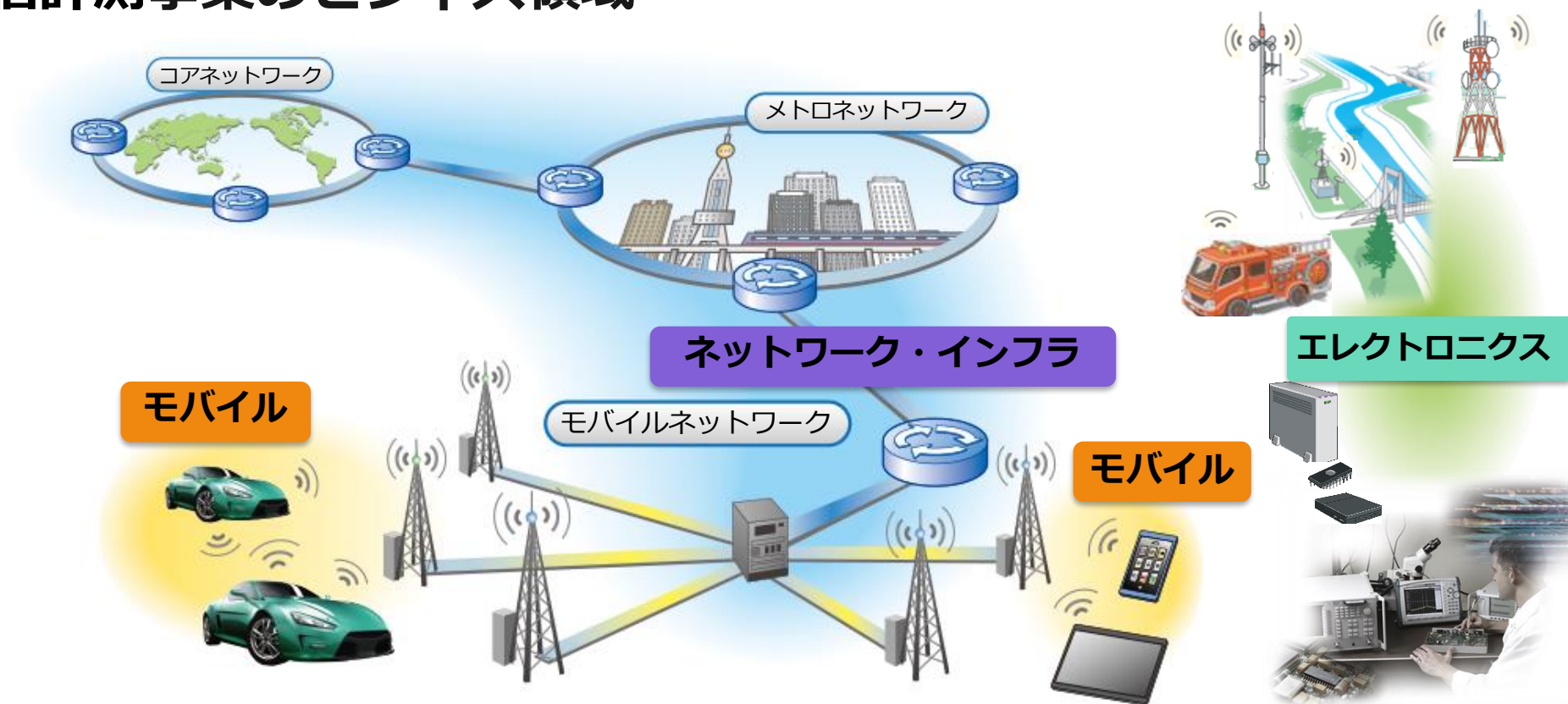
EVパワートレイン
エミュレーション



バッテリー充放電
試験システム

3. 通信計測事業

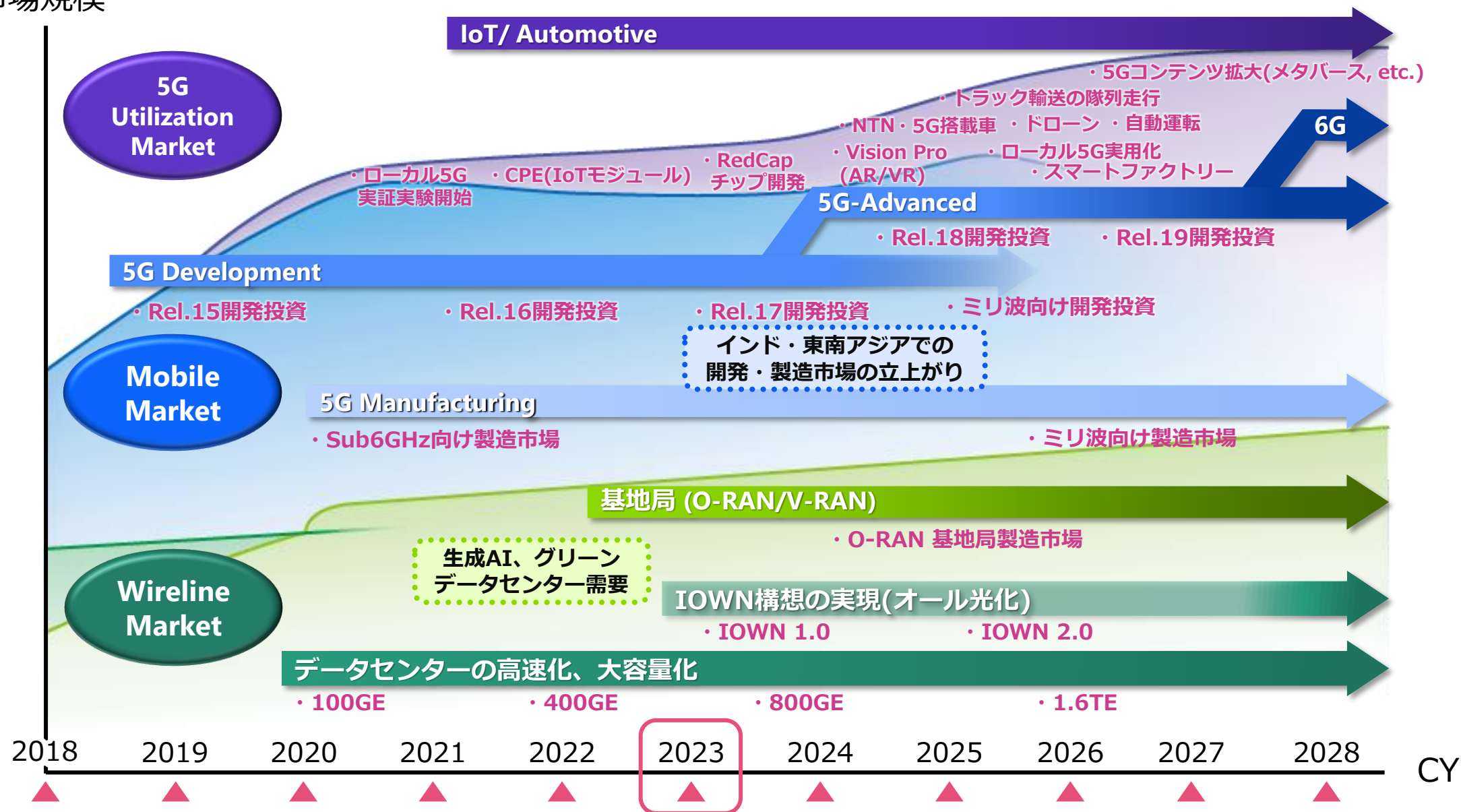
3-1. 通信計測事業のビジネス領域



	研究開発	製造	建設/保守
有線通信分野	ネットワーク・インフラ(30%)		
無線通信分野	モバイル (51%)		
汎用分野	エレクトロニクス (19%)*		*電子部品等

3-2. 通信計測市場トレンドと事業機会

市場規模



CY

3-3. 世界の5G状況



欧州

Sub6 : 欧州の主要キャリアが2022年5G網敷設
2021年3月末でEU27か国中24か国で5G
サービス開始
ミリ波 : イタリアではFWAとして推進、ドイツも
プライベート専用でサービスを展開*



中国

5G加入者は11億9,600万人* (2023年3月末)
接続IoTデバイス21億2,000万台* (2023年6月末)
Sub6 : 5G基地局を2023年6月末までに約300万
局設置済*
ミリ波 : 実証実験を継続中*



東南アジア/オセアニア

Sub6 : 豪州およびタイ、フィリピン等東南アジア
16か国中で10か国で5Gサービス開始
(2022年9月末)
ミリ波 : 豪州で2021年よりサービスを開始したが、
カバー範囲はほとんど無し*



韓国

5G加入者は3,000万人* (2023年4月末)
Sub6 : 基地局は20万局設置済。人口カバー率90%超
ミリ波 : SKテレコムを含む事業者のライセンスを取消。
2023年末までに新事業者の選定を予定*



US

5G加入者は1億1,900万人* (2022年末)
Sub6 : 2023年8月ベライゾンが、Cバンドの全帯域
をサービスに利用できるようになったと発表*
ミリ波 : Cバンドでのエリア展開を優先*



日本

5G加入者は6,981万人* (2023年3月末)
Sub6 : 全国47都道府県の主要都市をカバレッジ
4キャリア合計の5G基地局設置数8.8万局*
(2022年3月、4G帯を使用した5G含む)
ミリ波 : キャリア4社が2020年後半からサービス開始済
ただし、4キャリアとも人口カバー率は0.0%*

出所 : 一般公開情報を参考に当社作成 (2021年7月作成、2022年9月更新)

* 一部の情報を更新 (2023年8月)

3-4. 世界の5G/利活用/6Gの動向



US

5G Verizonのエリア拡張に伴う加入者増に期待

利活用 GAFAなどがゲームやメタバース向けにAR/VRヘッドセットを市場に投入の動き

6G 日米政府は、共同声明で6G研究開発に45億ドルを投資することを発表
(米国25億ドル、日本20億ドル)



欧州

5G 各国のサービス開始に伴う加入者増に期待

利活用 ドイツでは、産業用Local 5Gの導入をNokiaが牽引

6G 3GPPによる6G仕様は、2028年ごろのRelease 21から対応予定
・EU投資額：9億ユーロ（21-27年）
・ドイツ政府投資額：7億ユーロ（21-25年）



アジア/その他

5G ローエンド向けチップセット開発企業の増加
インドのオフショア開発拡大

利活用 Private 5G/FWA向けIoT無線モジュールの開発製造投資が堅調

6G 中国は、2021年3月に公表された計画にて5G-Advancedや6G等研究開発へのサポート強化表明
韓国政府投資額：2,200億ウォン（21～25年）



日本

5G 4G周波数帯も使用したエリア拡張推進中

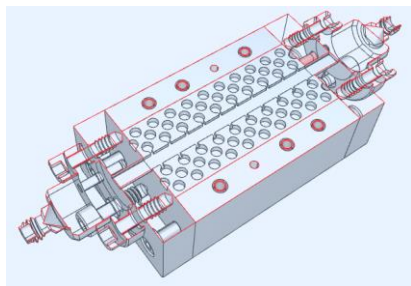
利活用 2024年5G搭載車リリースに向けた研究開発の加速

6G 大阪万博での6G技術の公開に向けた動き
政府主導の6G研究開発促進事業による高周波デバイス研究の加速
日本政府投資額662億円（23年度）

出所：一般公開情報を参考に当社作成（2023年1月時点）

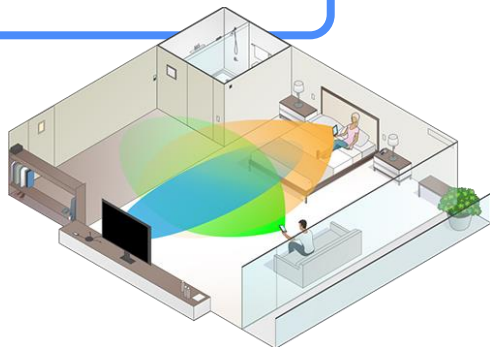
3-5. 6Gに向けてのアンリツの取組み

- 100GHz超のミリ波設計技術
- ~300GHz帯の受動素子の研究



ギャップ導波路

Full Duplex通信時の電波干渉の測定技術



5Gの10倍の
通信速度

5Gの1/10の
低遅延

消費電力を
現在の1/100

拡張性

自律性

6G
アンリツ
の取組み

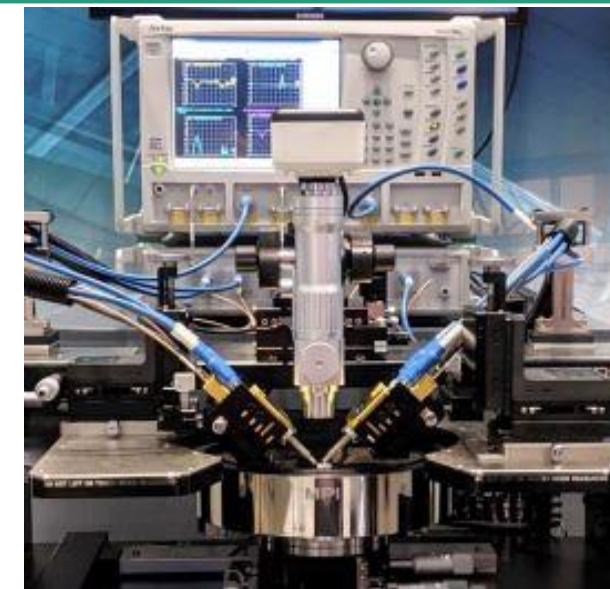


Beyond 5G/6G

材料、基板、デバイス、アンテナの性能評価

ME7838シリーズ

ベクトルネットワークアナライザ



■ 特徴

ミリ波拡張モジュール追加により、6Gに求められる330GHz帯の高周波試験に対応

■ 対象顧客

高周波デバイスの研究機関および大学、デバイスメーカー、素材メーカー、通信機器メーカー

5G利活用計測ビジネスの領域

ビジネス規模

スマート
フォン/
タブレット
端末

自動車
分野

産業機器
分野

ホーム &
セキュリティ
分野

スマート
メータ分野

その他の
IoT分野



- ・テレマティクス(C-V2X)
- ・自動運転(サイドリンク通信)



- ・ローカル5G、プライベート5G
- ・スマートファクトリー(NR-Light)



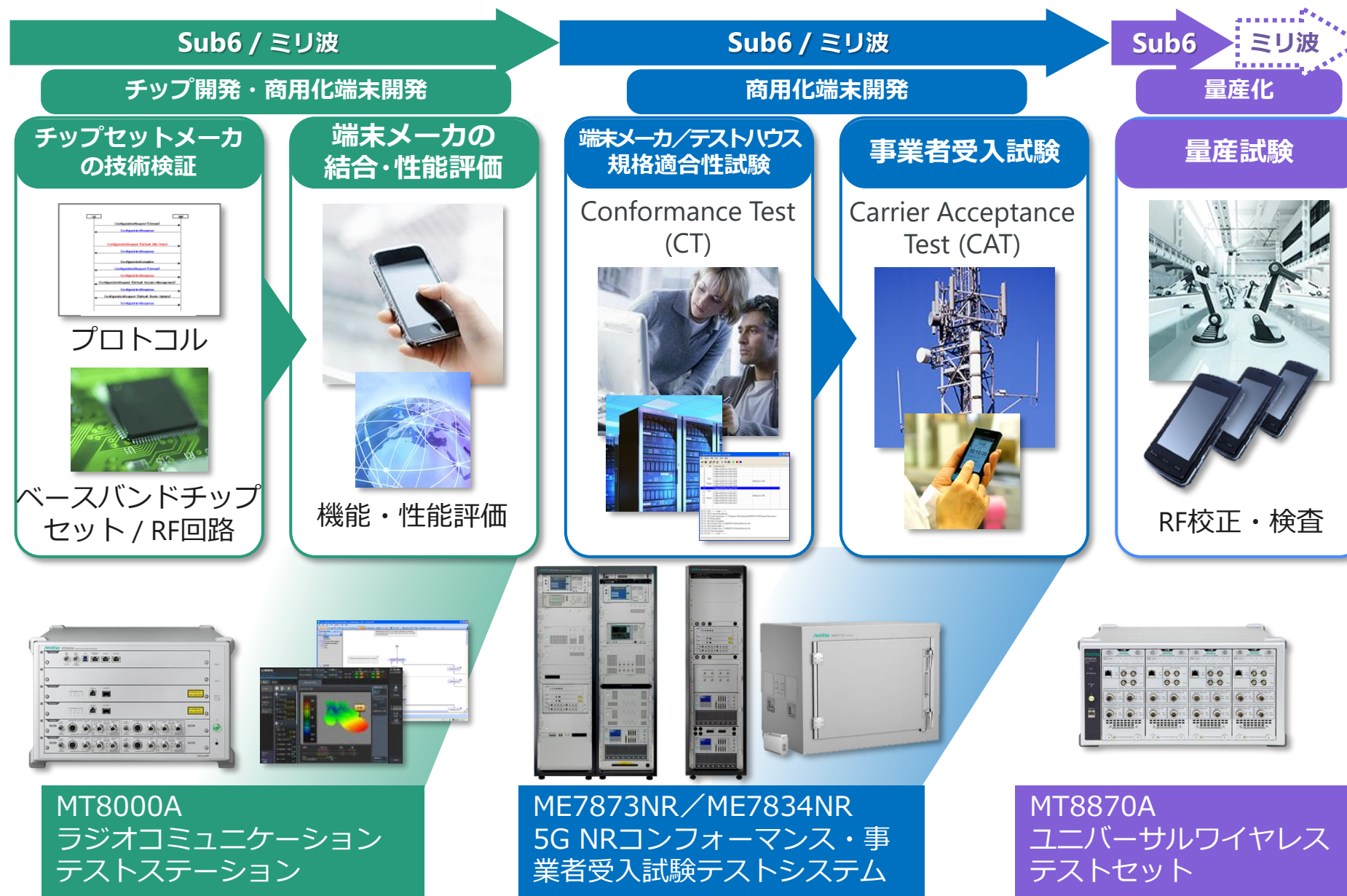
- ・IoTモジュール
(CPE, AR/VR, etc.)

高度な5G機能を利用

5G機能を利用

(CPE: Customer Premises Equipment、顧客構内設備)

3-7. 5G端末の開発・製造プロセスとテストソリューション



3-8. 5Gチップセット・端末開発用ソリューションMT8000Aの役割1

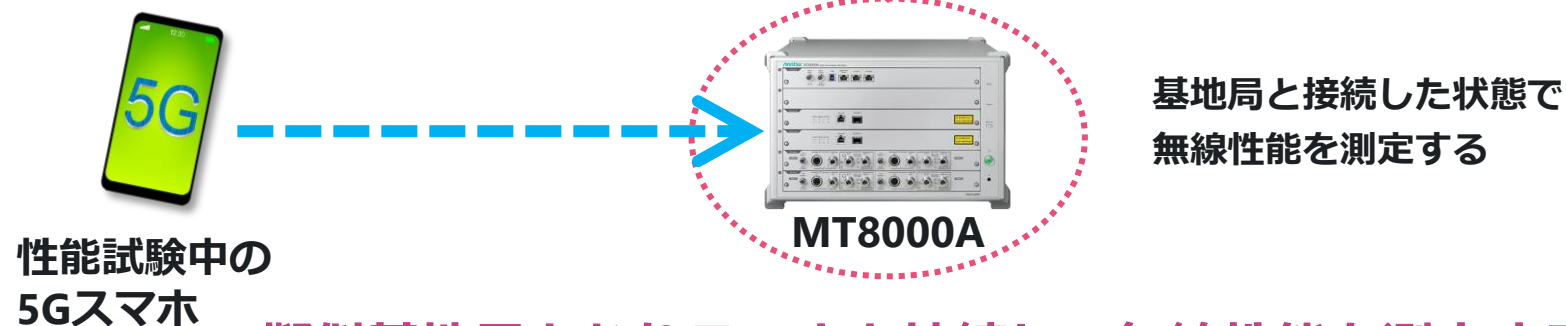
無線性能測定

実環境



擬似化

試験環境



擬似基地局となりスマホと接続して無線性能を測定する

3-9. 5Gチップセット・端末開発用ソリューションMT8000Aの役割2

プロトコル試験

試験環境



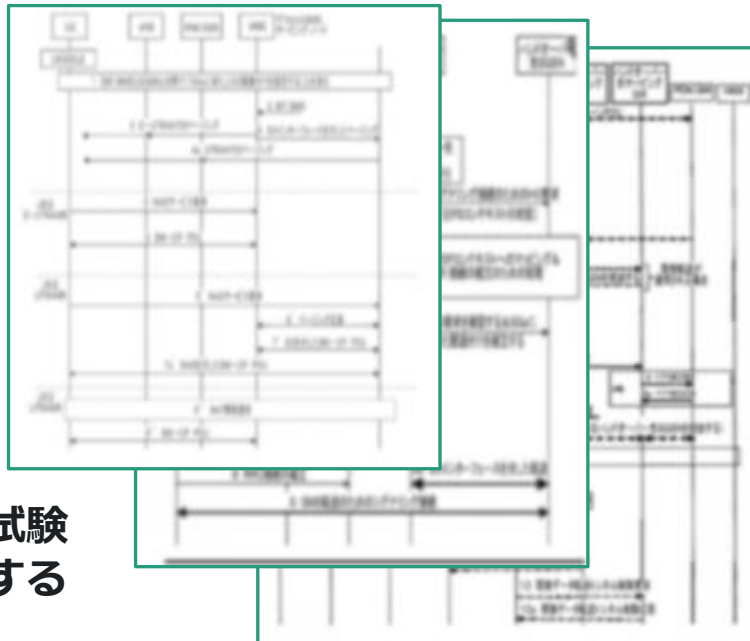
プロトコル試験中の
5Gスマホ



MT8000A

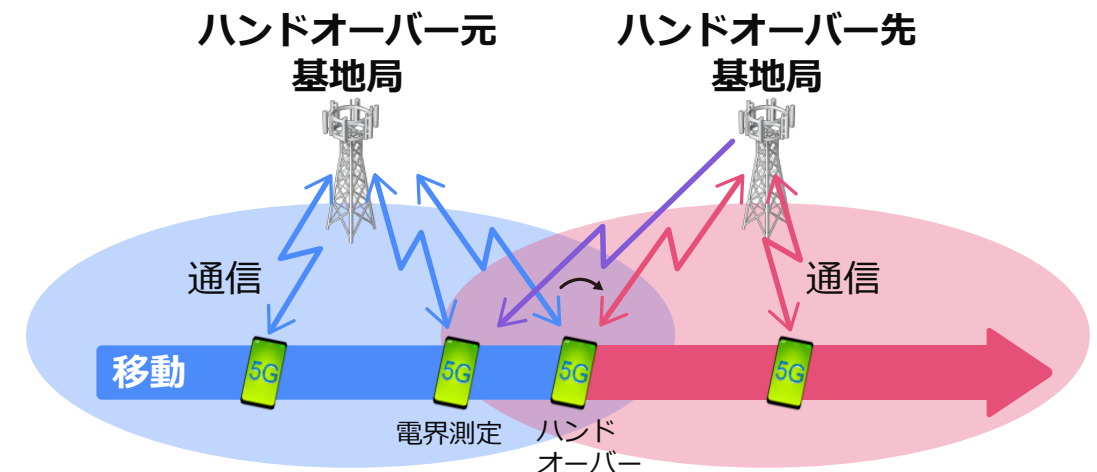
実際の基地局を使っては行えない動作確認や、通常の接続では確認できない異常状態など様々なシミュレーションが可能

擬似基地局となりスマホと接続してスマホの機能を試験する



様々な手順を試験
(デバッグ) する

ハンドオーバーの例：
基地局とスマホは何度も信号のやり取りを行っている



3-10. 5Gテストソリューション コンフォーマンス(規格適合)試験

開発されたデバイスが
3GPP規格に適合して
いるかを検証する



ME7873NR
5G NR RFコンフォー
マンステストシステム

無線性能の
規格適合試験



ME7834NR
5G NR モバイルデバイス
テストプラットフォーム

通信プロトコルの
規格適合試験

Anritsu

テストケース



主に、ヨーロッパと
アジアの端末適合試
験を運用する組織



米州内での端末適合
試験を運用する組織

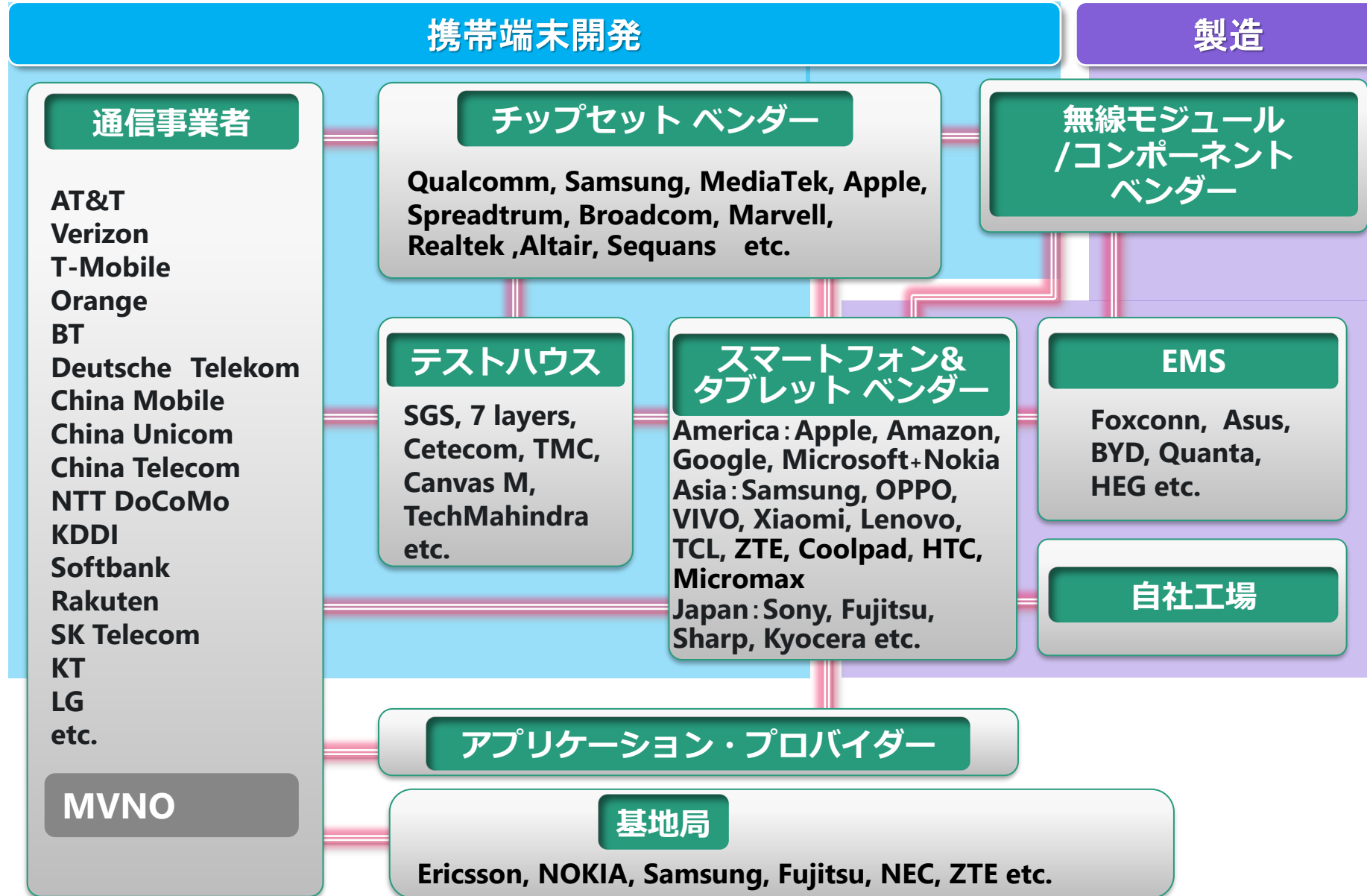


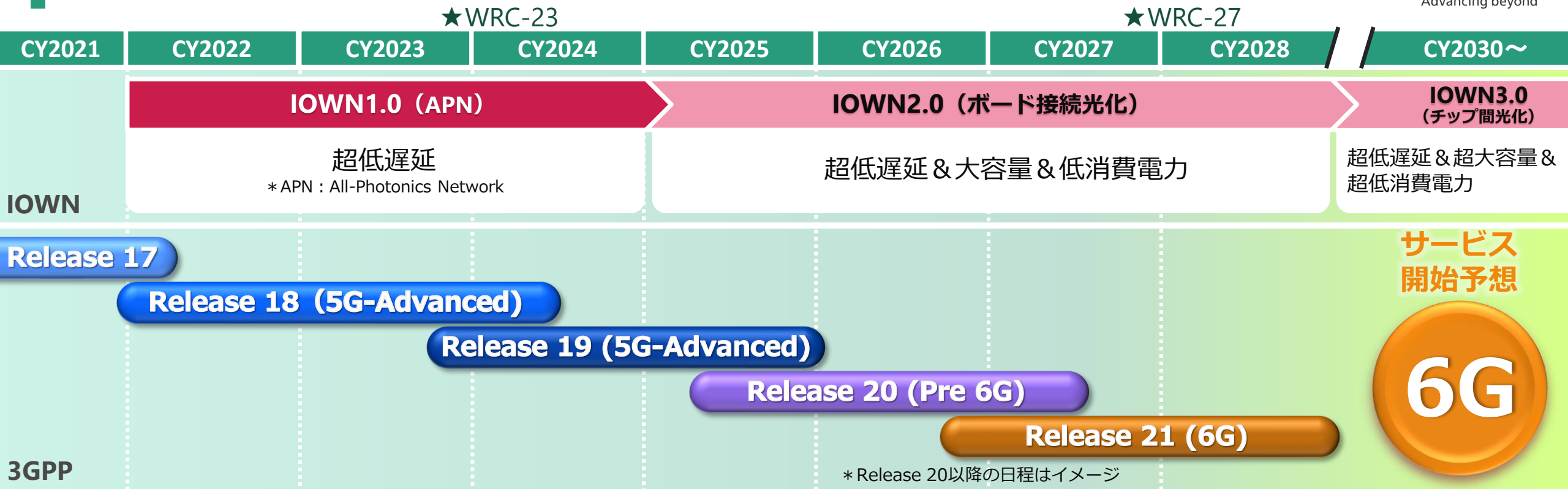
各通信事業者毎の
端末適合試験 (CAT)

DOCOMO
AT&T
Verizon
CMCC 等がある

シナリオ

3-11. モバイル通信市場の業界構造





3GPP Releaseの主な追加仕様	Release17	Release18	Release19
Network強化	非地上ネットワーク(NTN)	AI/MLモデルの配信/転送	FR3(7~15GHz)対応 AI/MLエアーインターフェイス
端末機能強化	電力消費量低減	ミッションクリティカル通信	XR機能強化
産業用IoT	産業用IoT “RedCap”の導入	5Gスマートグリッド	UAV/UAM（ドローン/空飛ぶ車）
Automotive	V2X	サイドリンクCA	3GPPで検討中

* Release 19のテーマは2024年3月に決定予定

* 出所：一般公開情報を参考に当社作成

3-13. 5G標準化動向

	CY2019	CY2020	CY2021	CY2022	CY2023	CY2024	CY2025
	Release16		Release17		Release18		Release19
Network強化	<ul style="list-style-type: none"> • IAB : アクセスとバックホールの統合 (ミリ波を基地局間の接続にも使用) • 無線と有線のコンバージェンス 		<ul style="list-style-type: none"> • 52.6-71GHzの周波数利用 • ネットワークスライシングの強化 • ネットワークオートメーションの強化 		<ul style="list-style-type: none"> • 触覚やマルチモダリティ • 超テリトリサービス • AI/MLモデルの配信/転送 • 車両搭載通信リレー 		<ul style="list-style-type: none"> • FR3 (7~15GHz) 対応 • AI/MLエアーインターフェイス • ネットワークエナジーセービング機能強化 • 非地上ネットワーク (NTN) 機能拡張
端末機能強化	<ul style="list-style-type: none"> • 電力消費量低減を支援する機能 • Massive MIMOの強化 (マルチユーザMIMO) 		<ul style="list-style-type: none"> • さらに電力消費量低減機能 • さらに強化されたMIMO • マルチUSIM対応 • クラウドゲームのQoS向上 		<ul style="list-style-type: none"> • 住居用5G機能強化 • ミッションクリティカル通信 		<ul style="list-style-type: none"> • モビリティ機能拡張 • Duplex機能拡張 • XR機能強化
産業用IoT	<ul style="list-style-type: none"> • 高いレジリエンス (CoMP、multi-TRP等による複数の通信経路の確保) • NR-U : 免許不要な周波数帯の利用 (5GHz帯、6GHz帯) • ローカル5G (非公共ネットワークの仕組み導入) 		<ul style="list-style-type: none"> • 産業用IoT “RedCap”の導入 (旧NR-Lite) (監視カメラやウェアラブル端末のMTC向け) • 60GHz帯のNR-U 		<ul style="list-style-type: none"> • 鉄道スマートステーション • 5Gスマートグリッド • 低電力高精度の測位 		<ul style="list-style-type: none"> • UAV/UAM (ドローン/空飛ぶ車) • アンビエントIoT • ISAC (センシングと通信の統合)
Automotive	<ul style="list-style-type: none"> • 超高信頼性低遅延通信の強化 • TSN*による時刻同期をサポート • 高精度の測位機能 (数mの精度) • 5G V2X : C-V2Xの強化 		<ul style="list-style-type: none"> • 高精度の測位機能 (数10cmの精度) • サイドリンク通信の強化 (基地局不要の機器間通信に対応) • V2X向けマルチキャスト • 非地上ネットワーク (衛星の活用他) 		<ul style="list-style-type: none"> • サイドリンクCA • 予測型QoS • 車両用分散型アンテナシステム 		<ul style="list-style-type: none"> • 測位機能強化 (ネットワークリソース活用改善) • FR2サイドリンク

* 出所 : 一般公開情報を参考に当社作成

3-14. NTN（非地上ネットワーク）の動向とアンリツの取り組み

衛星を用いるモバイルサービスやプレサービスが順次開始されてます。

3GPPが策定している5Gにおいても、Release 17にてNTN（non-Terrestrial Network）仕様として、地上ネットワークと衛星ネットワークとの統合が進められています。

MT8821Cは、NTN NB-IoT用の試験ソフトウェアを搭載することで、NTN仕様で衛星と通信を行うデバイスの無線特性の測定が行えます。
当社は、Skylo社のパートナー企業として、同社のNTNデバイス受入のための試験もサポートしています。

Anritsu skylo

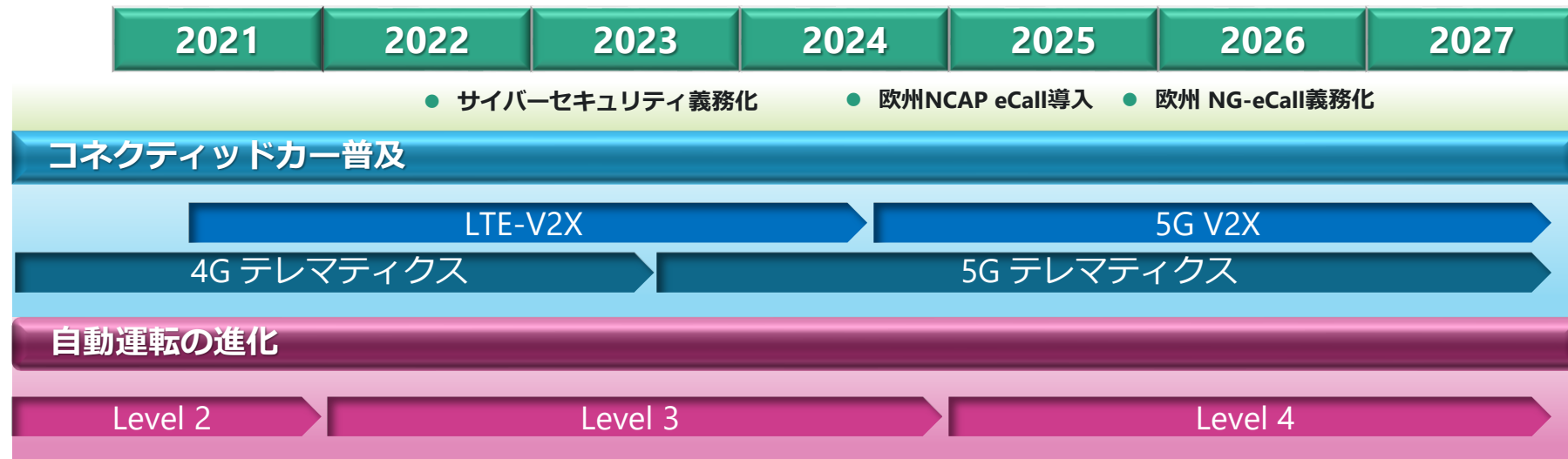


ラジオ コミュニケーションアナライザ
MT8821C

主な衛星サービス	サービス開始	契約キャリア等
Starlink	2021年	KDDI, Softbank, Docomo, T-Mobile, etc.
Skylo	2024年	Softbank, SORACOM, Telefonica, etc.
AST SpaceMobile	2024年以降	Rakuten, AT&T, Vodafone, etc.
Space Compass	2025年	Docomo, NTT
Globalstar	2000年	2022年末iPhoneからの緊急SOSのみ対応

* 出所：一般公開情報を参考に当社作成

3-15. 自動車市場における新技術の導入とアンリツの取り組み

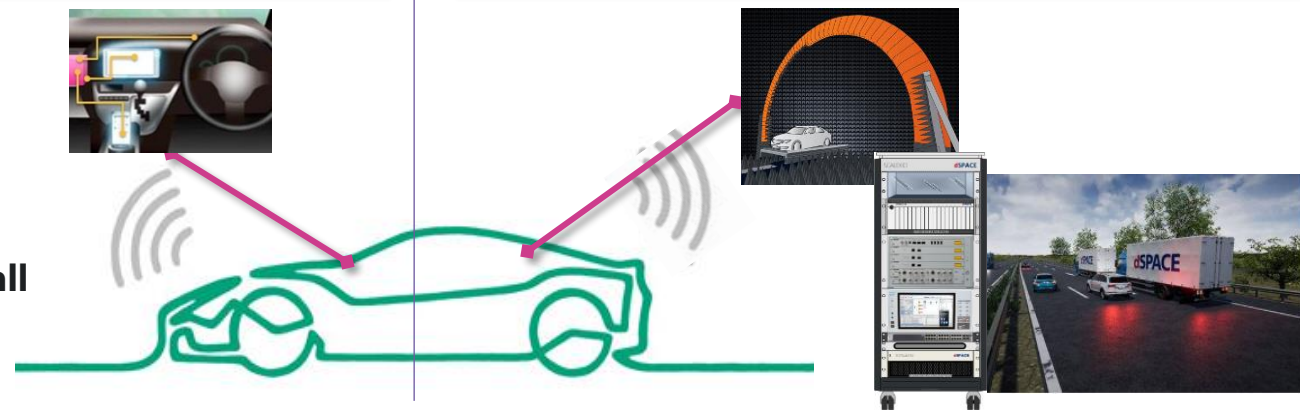


コネクティッドカー/ V2X ※ 車車間・路車間通信

モバイルネットワーク
シミュレータ

- UN-R144 (eCall), NG eCall
- Cyber Security
- V2X (802.11p, C-V2X)
- Infotainment Services

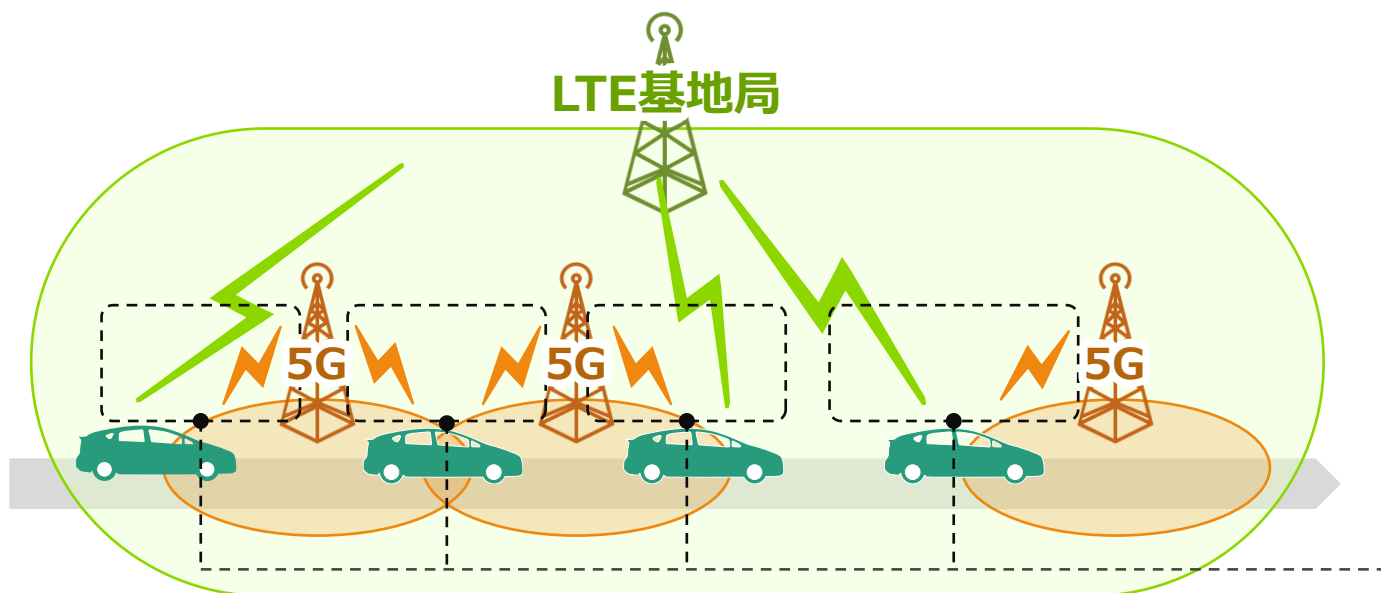
HILと連携した通信協調型サービス



3-16. Automotive向けソリューション

5G搭載車リリースに向けた5Gテレマティクス機能の開発

MX728000A SmartStudio Automotive Suite



測定例

- 走行中に基地局間のハンドオーバーがスムーズに行われるか？
 - 常時接続できているか？
- 等を、MT8000AとMD8475Bを組合わせて検証する

■ 特徴

Automotive特有のニーズである高速移動&常時接続を検証するためのテストケースを提供

■ 対象市場

- 自動車（コネクテッドカー、自動運転）

■ 対象顧客

- 自動車メーカー、農機・建機メーカー、車載通信機メーカー：Tier1、など

日本ではローカル5Gとして新たに導入され、海外ではプライベートLTEの発展形として期待される。



AGV: Automatic (Automated) guided Vehicle

引用：ローカル5G検討作業班 報告書骨子案 総務省 総合通信基盤局電波部 移動通信課

3-18. ローカル5G こんなところでアンリツが活躍

リモート操作の遅延測定

ロボットのリモート操作の為の遅延時間を測定



MT1000A ネットワークマスタープロ

基地局性能試験や通信エリア測定

通信エリアの電界強度測定



ML8780J エリアテスタ

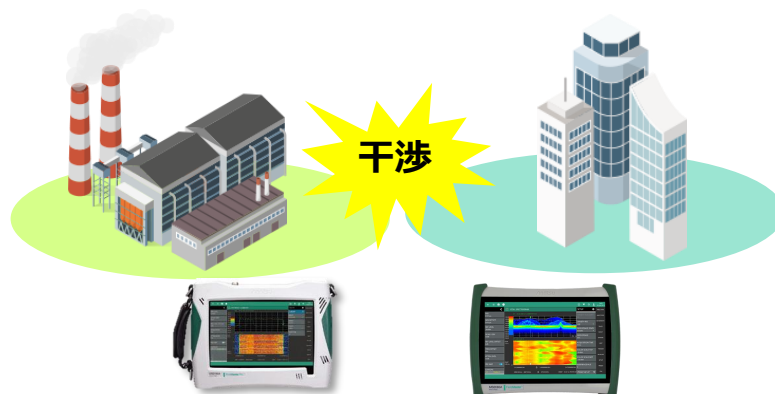
基地局性能試験



MS2840A/50A シグナルアナライザ

電波干渉の測定

ローカル5Gエリアの重複による電波干渉を測定



MS2090A

MS2080A

フィールドマスタープロ フィールドマスタ

端末やセンサーモジュールの性能試験

端末やセンサーモジュールの無線特性、プロトコルを試験



MT8000A ラジオコミュニケーション
テストステーション

5G NR基地局のフィールド性能測定やカバレッジマッピング

フィールドマスタ プロ MS2090A/フィールドマスタ MS2080A

- 周波数範囲 MS2090A : 9 kHz~9/14/20/26.5/32/43.5/54 GHzをサポート
MS2080A : 9 kHz~6 GHzをサポート
- 5G基地局だけでなく、既存のGSM、LTEなどもサポート
5G復調にも対応
- 54 GHzまでの送信スプリアス測定



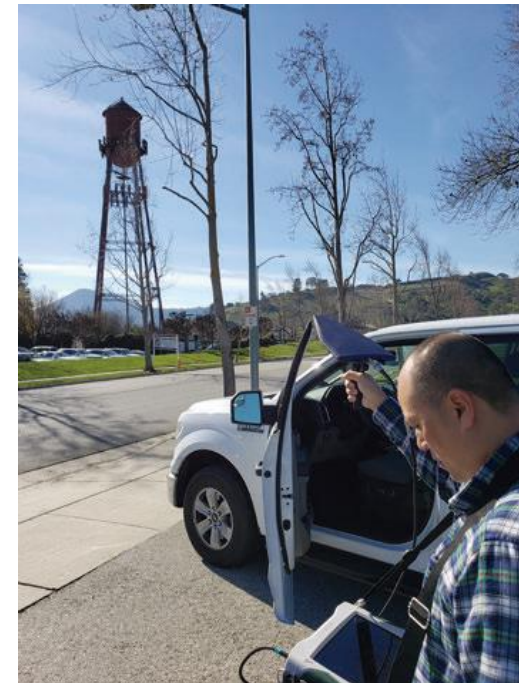
使用例：5G NR基地局測定

3GPP TS 38.104 V15準拠のgNB基地局パフォーマンス検証

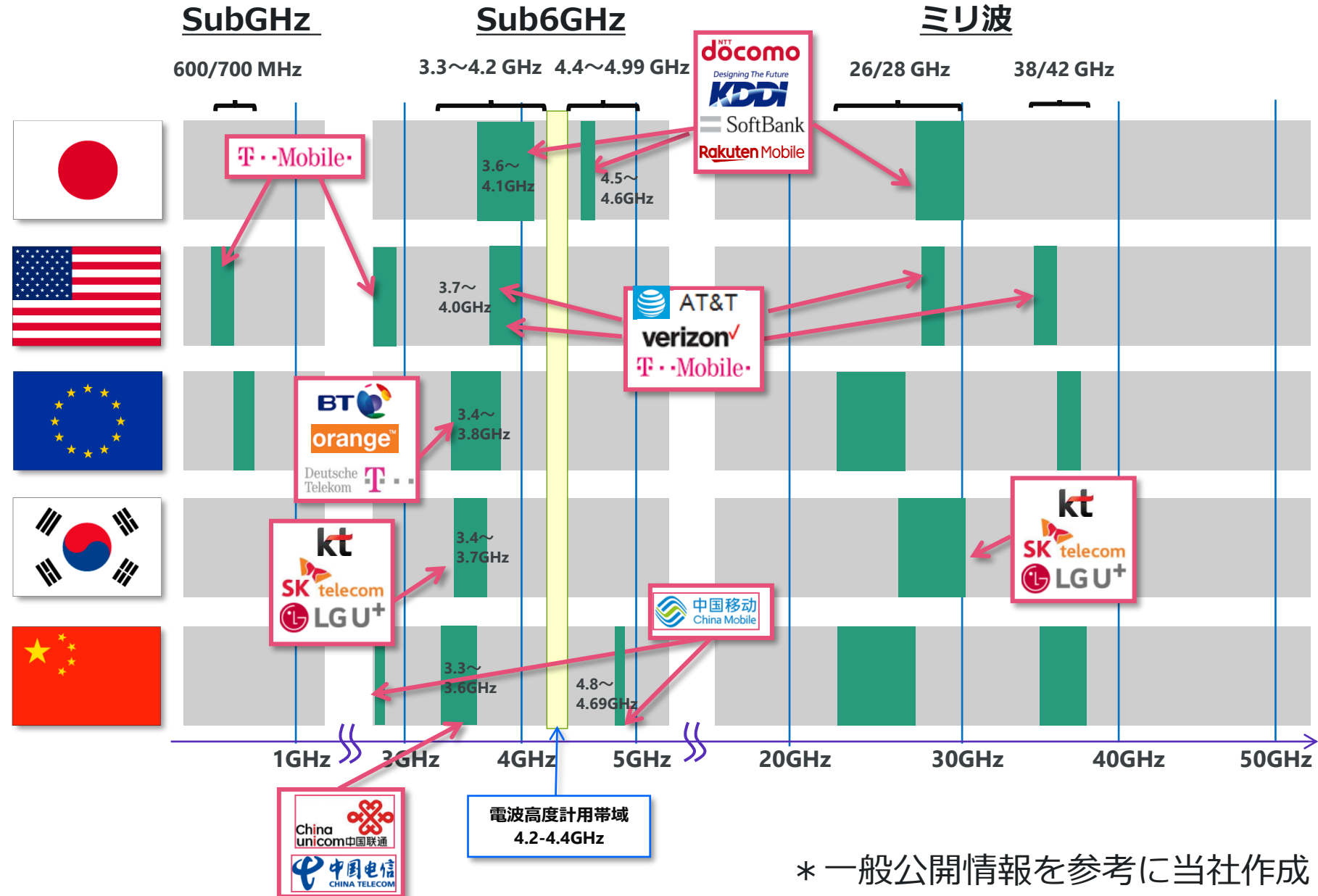
- 周波数エラー・占有帯域幅
- タイムオフセット・隣接チャネル漏洩比
- セル/セクタID・12.75 GHzまでの送信機スプリアス
- 変調品質・EIRP
- 不要放射・同期信号ブロック (SSB)
- FR1、FR2双方に対応・最大64ビームに対応

使用例：5Gカバレッジマッピング

チャネルパワー、EIRP、またはRSRPを含むRFデータを連続測定し、特定の場所における5Gの信号強度を地図上に表示。測定結果をデジタルマップや建築物平面図にグラフ表示。



3-20. 各国の5G向け周波数



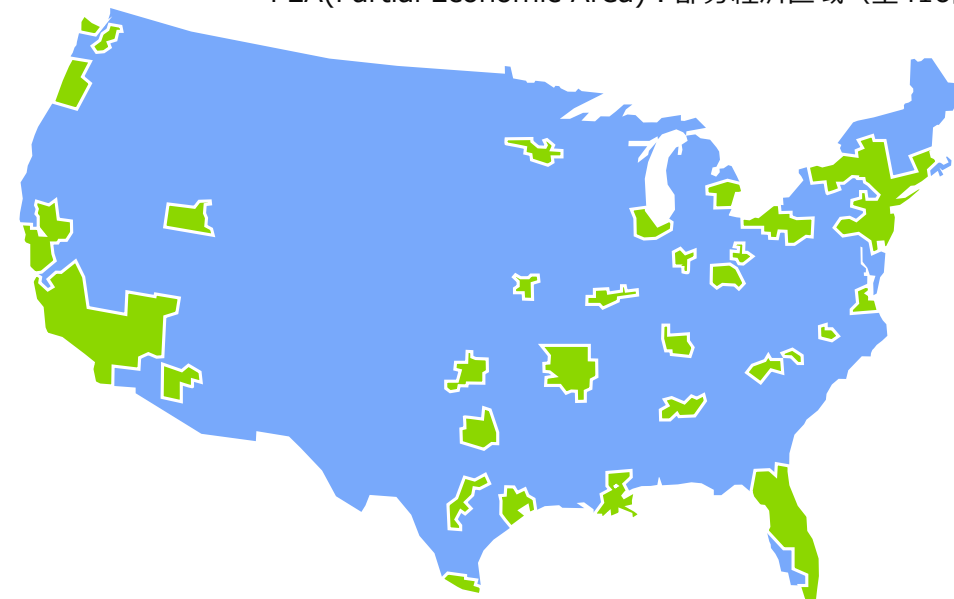
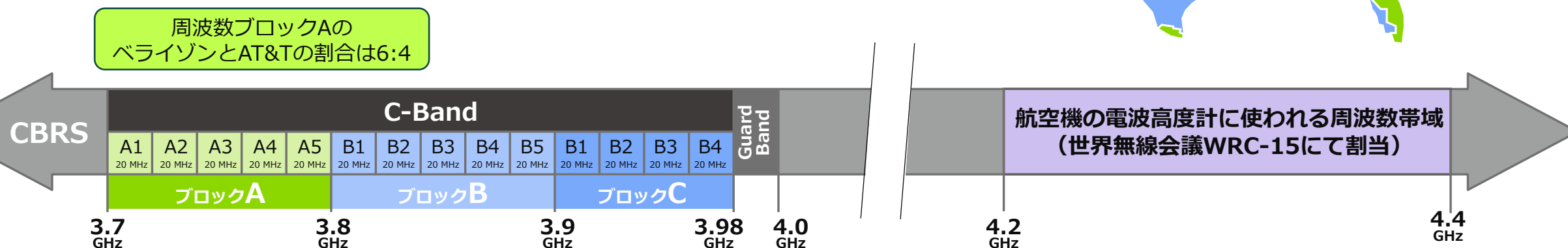
3-21. 米国Cバンドの状況

2022年1月
ベライゾンがCバンドを使うサービスを開始

2023年8月
ベライゾンがCバンドの全帯域をサービスに
利用できるようになったと発表

- Phase 1 : 46PEAs & 周波数ブロックA
2021年末までに周波数開放
- Phase 2 : 残りのPEAs 及び 周波数ブロックB & C
2023年末までに周波数開放

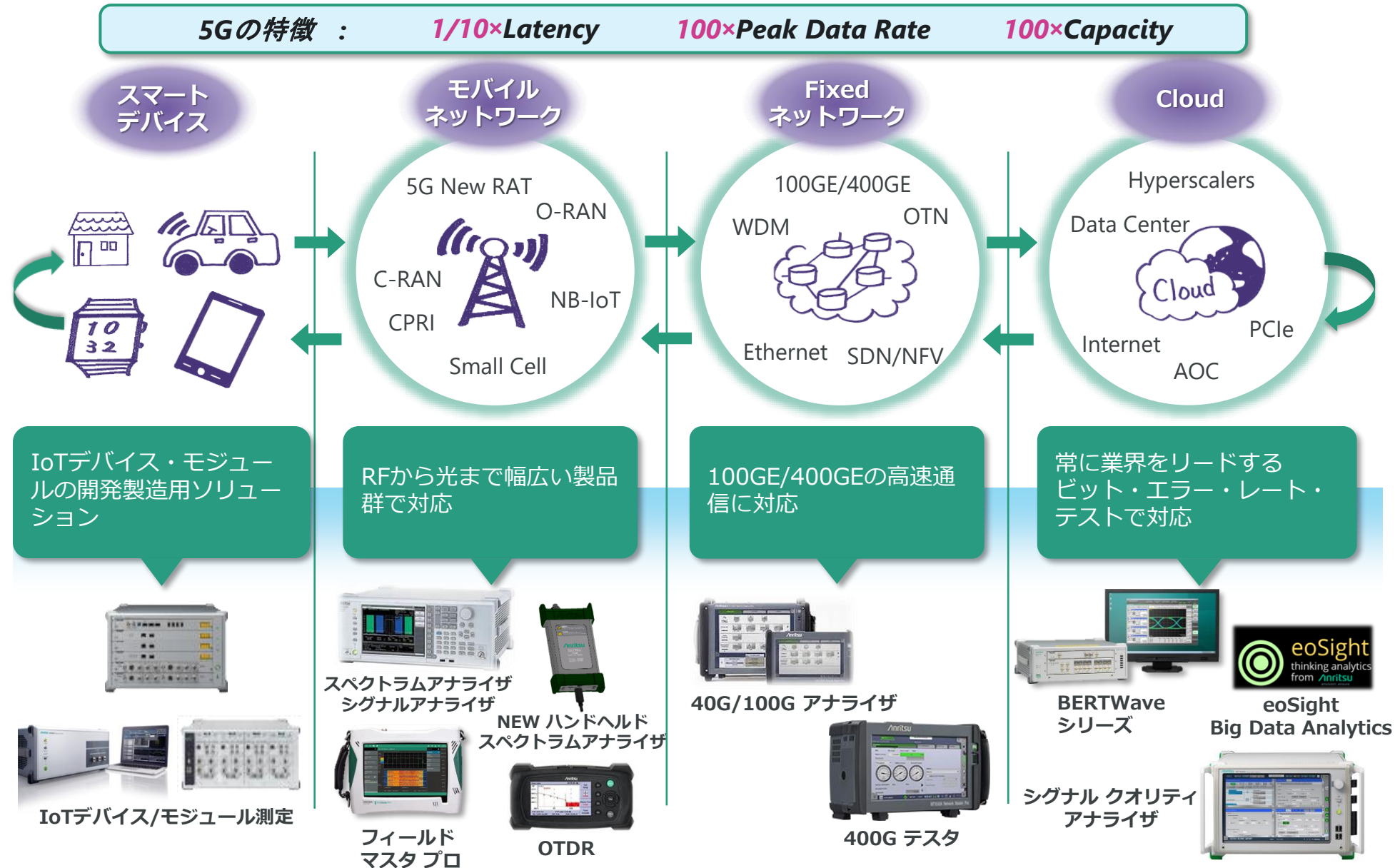
*PEA(Partial Economic Area) : 部分経済区域 (全416区域)



(CBRS: Citizens Broadband Radio Service、市民ブロードバンド無線サービス)

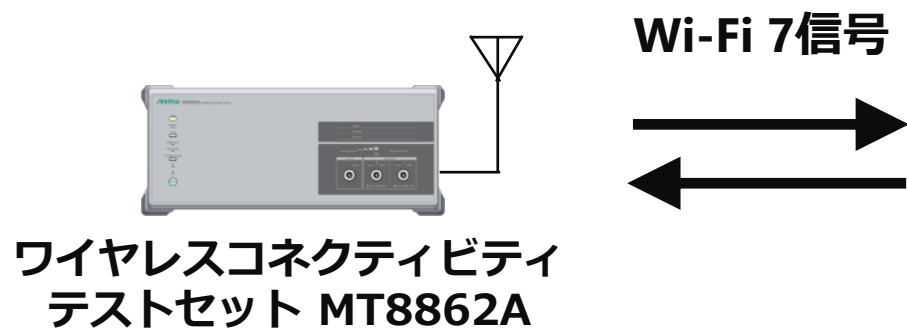
出所：図は一般公開情報を参考に当社作成
地図は概略を示す

3-22. 5Gネットワークを支えるアンリツのソリューション



320MHzの広帯域のWi-Fi 7デバイスを評価

無線品質試験

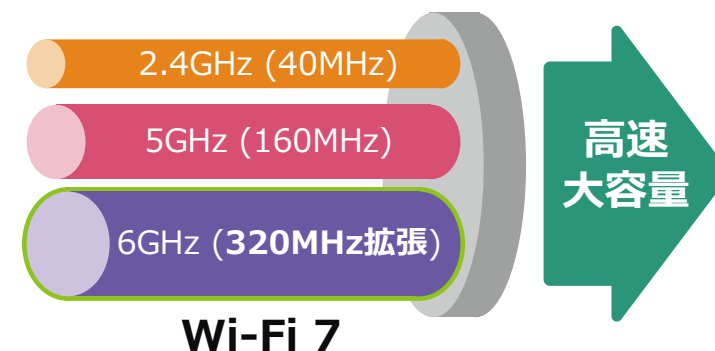


同時多接続の試験



Wi-Fi 7に対応した 無線LAN機器

高速・大容量の試験



■ 特徴

- Wi-Fi 7のプロトコルを搭載、実環境での通信品質評価を実現
- 標準規格 IEEE802.11 b/g/a/n/ac/ax/be(Wi-Fi 7)に準拠。幅広い無線LAN機器の評価に対応
- かんたん操作で、ライトユーザ層から専任の無線技術者まで幅広く貢献

■ 対象市場

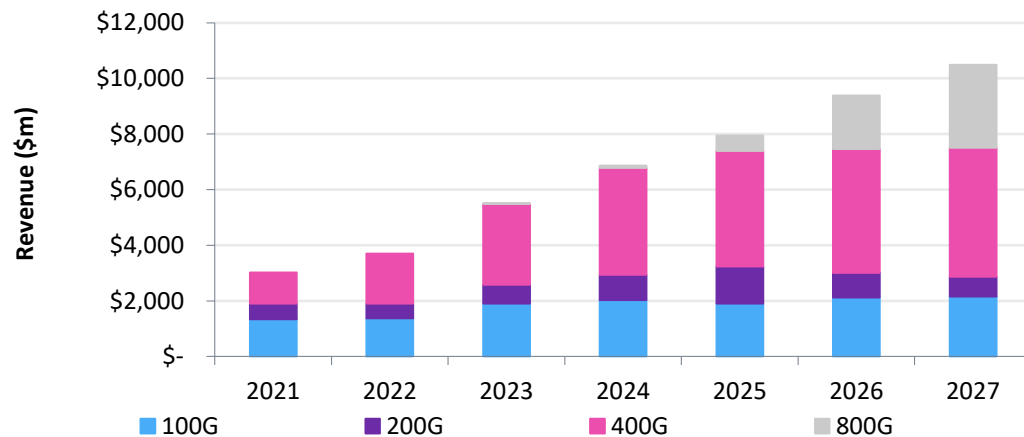
- スマートフォン、宅内ルータ・ゲーム機・家電などIoTデバイス、通信モジュールの開発・製造市場

■ 対象顧客

- スマートフォンベンダ、IoTデバイスベンダ、モジュール・チップベンダ

3-24. クラウドサービスの拡大を支えるテストソリューション

High-speed (from 100G to 800G) optical modules by data rate



Source: Omdia

© 2022 Omdia

Source : Omdia; Datacom Transceiver and AOC Forecast: 2022-27 19 SEP 2022

急速に伸びるデータトラフィック

データセンター



- データセンター増設
- 高速化
- 大容量化
- 光化

DCI (データセンター相互接続)
高速通信
10GE/40GE/100GE→400GE/800GE

データセンター



主な競合

Viavi (旧JDSU)

主な競合

キーサイト

研究開発 ソリューション

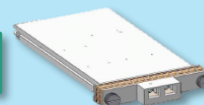


MP1900A
シグナル クオリティ アナライザ

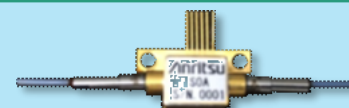
データセンター装置
(ルーター、スイッチ等)



光モジュール



光デバイス



測定対象：超高速光デバイス・モジュールなど

製造、設置、保守 ソリューション



MP2110A BERTWave



MS9740B
光スペクトラムアナライザ



MT1040A ネットワークマスタ
プロ (400Gテスト)



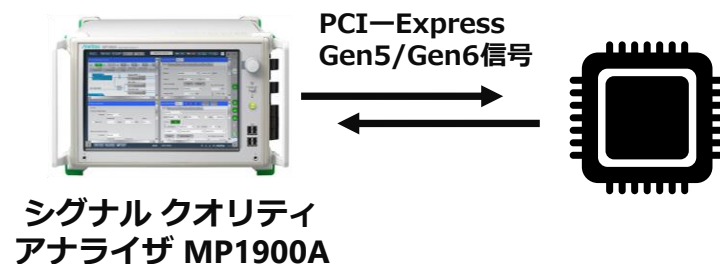
MT1000A
ネットワークマスタ プロ
(Ethernet/CPRI/
OTDRテスト)

3-25. 製品紹介：ネットワークの高速化に向けたソリューション

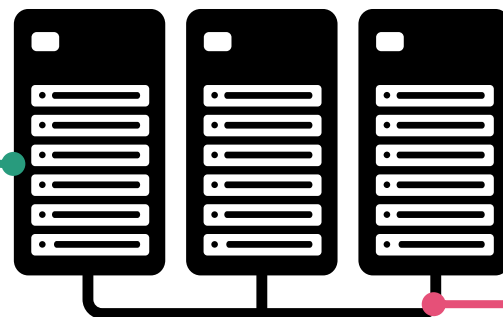
生成AIの普及によるデータセンターの大容量化に伴うデバイス/モジュール評価に対応

- ・ PCI-Express Gen5→Gen6
伝送容量が2倍

サーバー内のデバイス、モジュール評価



データセンター



- ・ 100GE→400GE→800GE
サーバー間の光インターフェース高速化

光トランシーバ評価



■ 特徴

- ・ 100GE/400GE/800GE対応、PCI-Express Gen5/6対応

■ 対象市場

- ・ GPU/CPU、高速光通信デバイス/モジュールの開発市場

■ 対象顧客

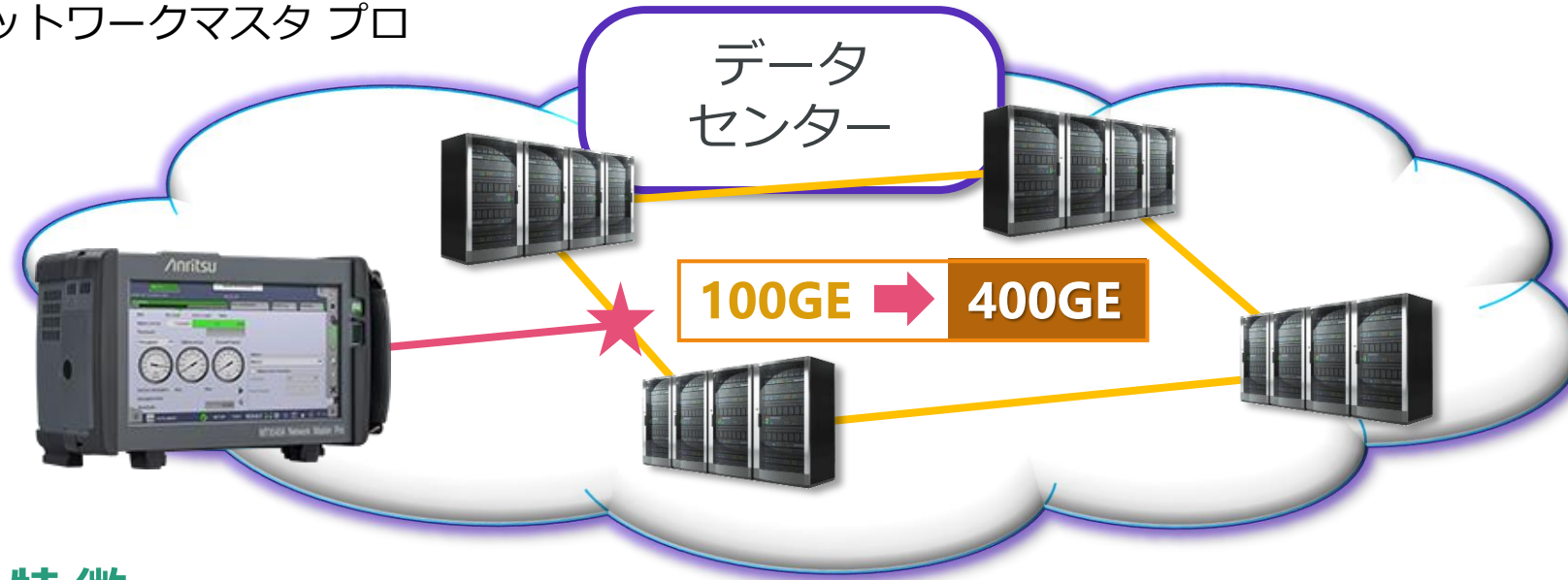
- ・ チップベンダ、光トランシーバベンダ、ネットワーク機器ベンダ、ハイパースケーラー

3-26. データセンターの高速化向けソリューション

400Gイーサネットに対応したポータブル測定器

MT1040A

ネットワークマスタ プロ



■ 特徴

データセンターの高速化の検証 100Gイーサネット → 400Gイーサネット

■ 対象市場

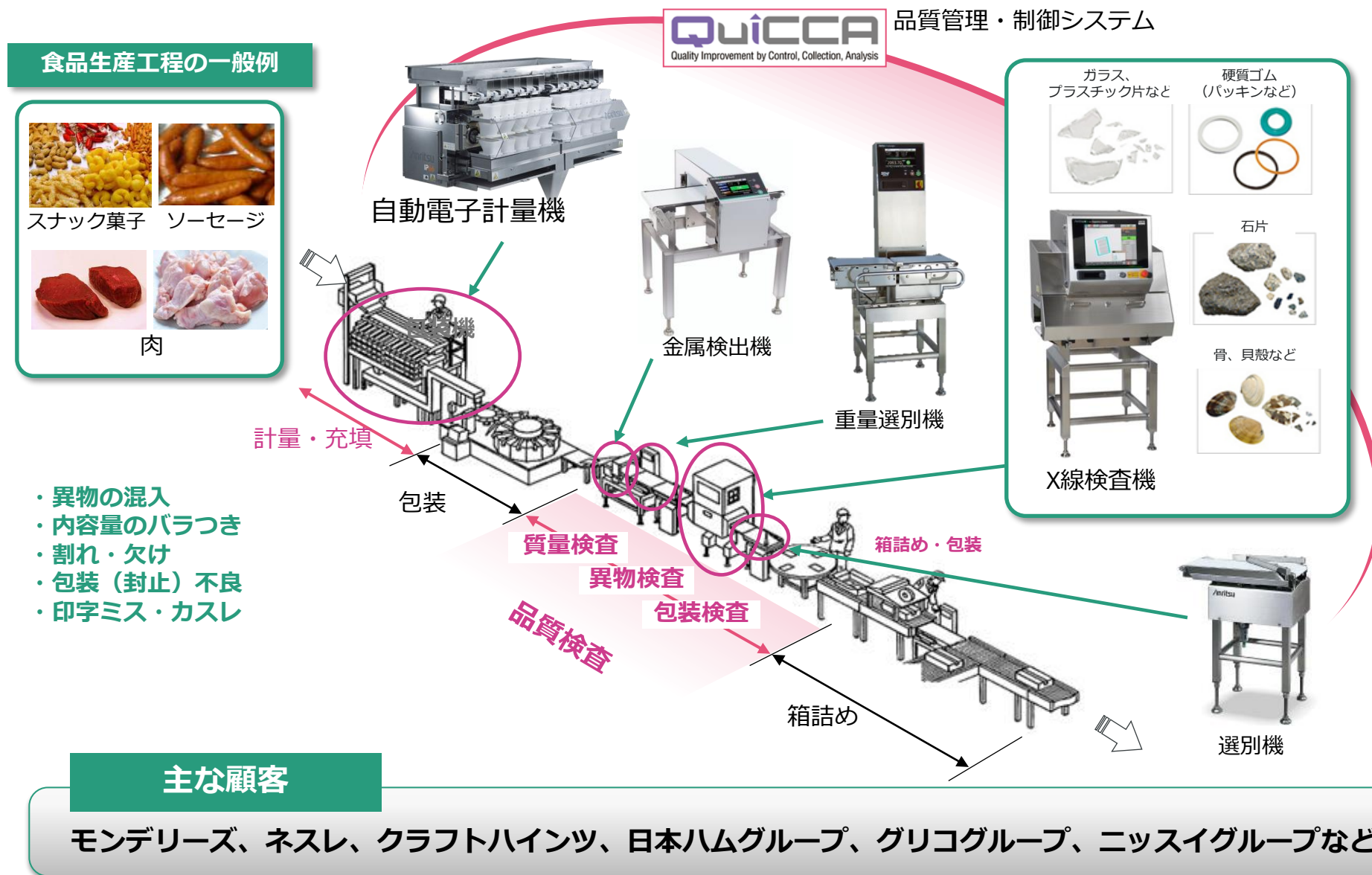
- ・ 通信ネットワーク、データセンター

■ 対象顧客

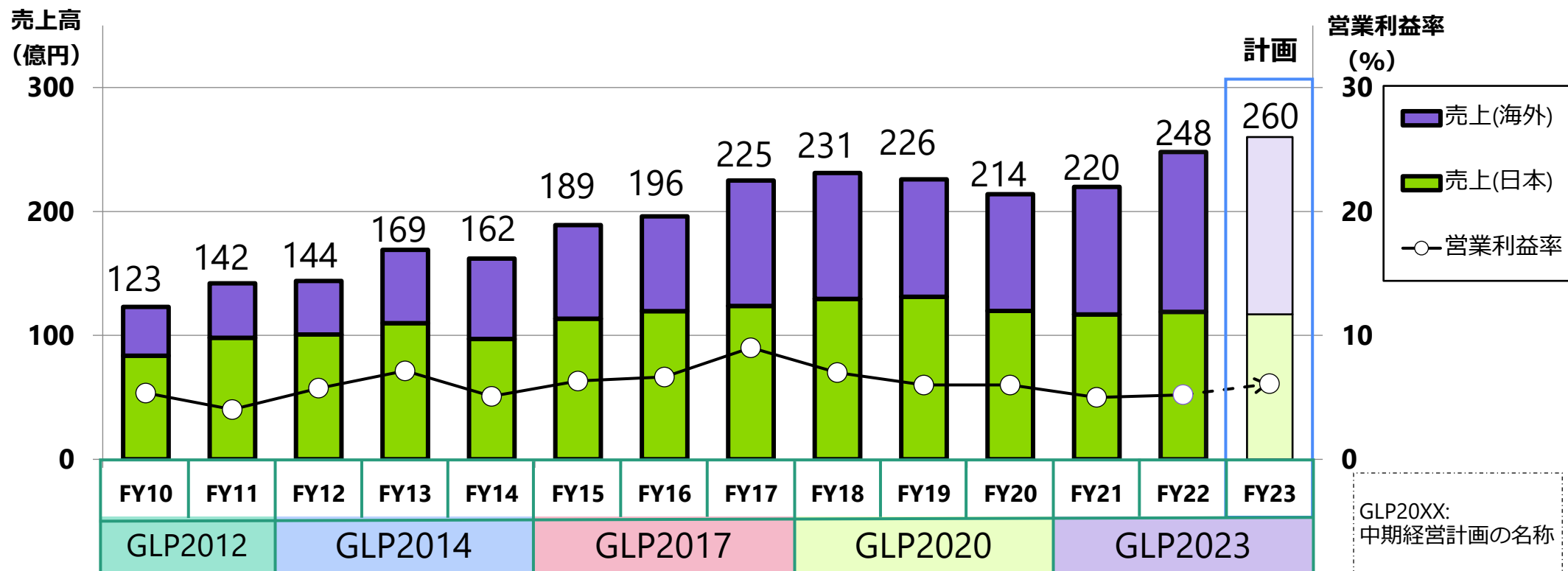
- ・ 通信事業者、通信ネットワーク工事会社、通信設備保守会社、ネットワーク機器ベンダ

4. PQA事業

4-1. PQA 事業 (Products Quality Assurance)



4-2. 成長するPQA事業

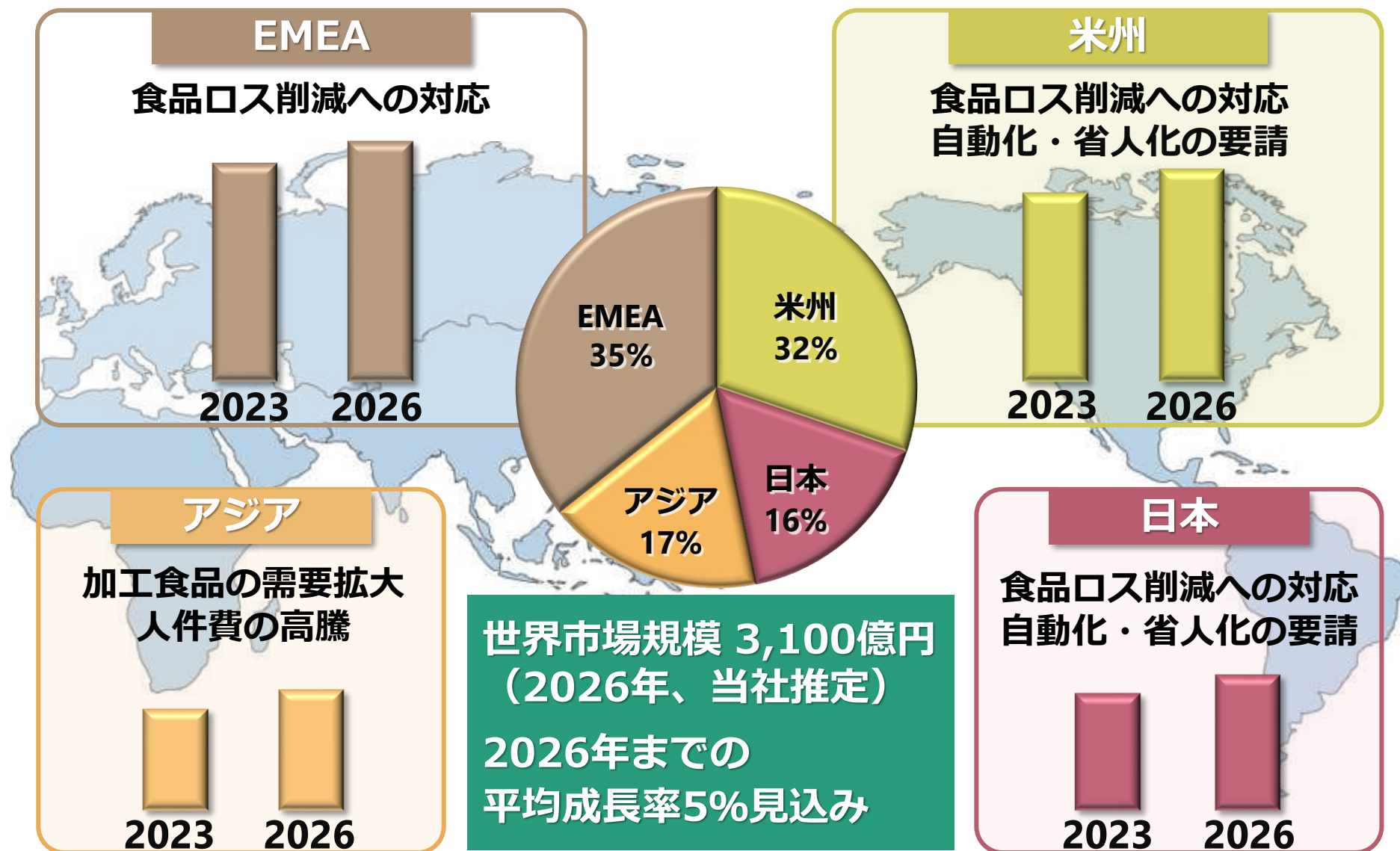


市場	主な取り組み
北米・EMEA・アジア	X線検査機をキー・ソリューションとした市場開拓
日本	最先端ニーズにこたえる高付加価値の品質保証ソリューションでシェア向上

主な競合

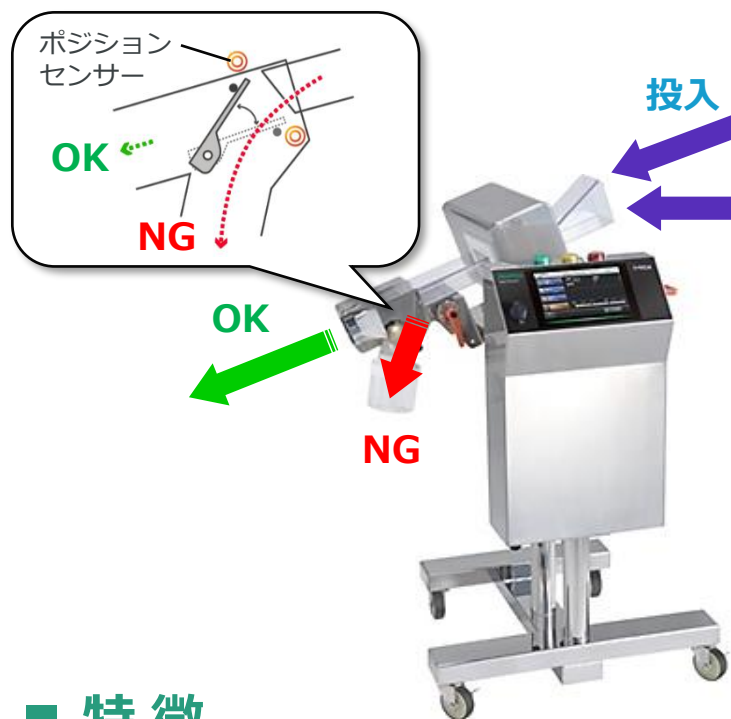
メトラートレド、イシダ、マレル

4-3. PQA事業：PQA市場の現状と見通し



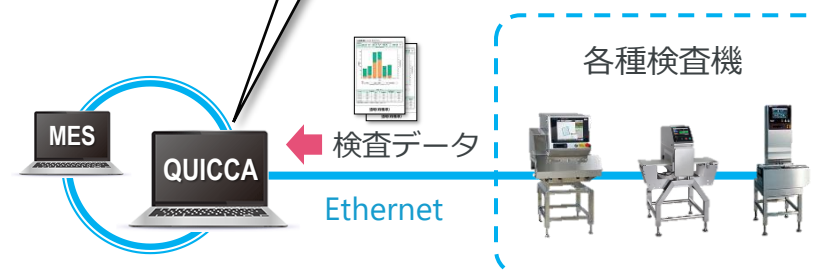
医薬品市場向け金属検出器

KDS1004PSW 錠剤・カプセル用金属検出機



Quicca Pharma

医薬品向け
総合品質管理/制御システム



■ 特徴

錠剤、カプセル内の金属異物を高感度に検出し、OK/NGを判定

- ・ 0.1mm以上の金属片を検出可能

■ 対象顧客

- ・ 製薬会社

4-5. 食肉市場向けソリューション

高感度の異物検出、厚みがあり凹凸の多い食肉や冷凍食品などに対応

KXH7534ASGCD デュアルエネルギーセンサ搭載X線検査機

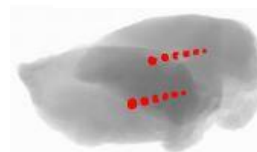
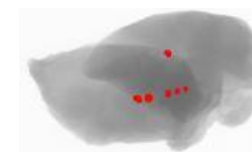


テスト事例（鶏むね肉2枚重ね）



新型機

従来機



赤い点は検出された異物

■ 特徴

新開発のセンサで微細な残骨等を高感度に検出可能

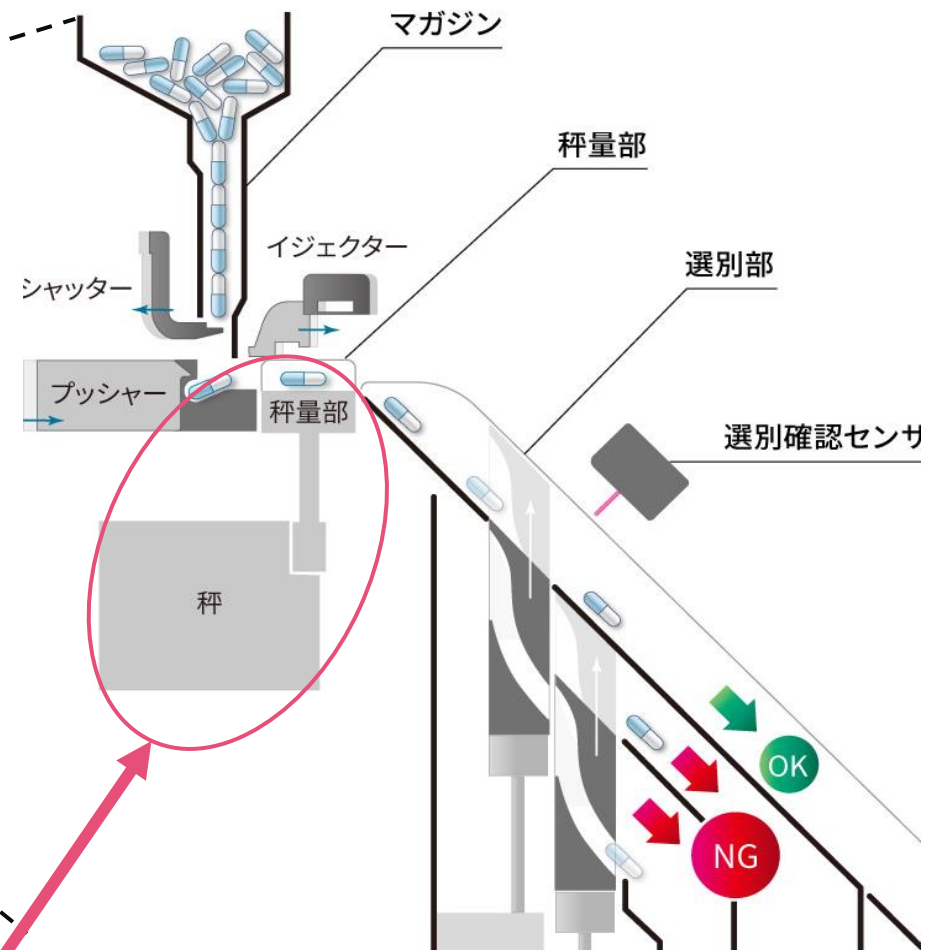
■ 対象顧客

食肉加工メーカー、冷凍食品市場メーカー

4-6. 医薬品市場向けソリューション

医薬品向け高精度カプセルチェッカー

オートチェッカ（重量選別機）KWS9002APシリーズ



■ 特徴

カプセル医薬品の重量を高速・高精度で全数検査

- ・高性能フォースバランス秤は ± 0.5 mgの高精度を実現（業界最高ランク 最高測定精度*）

■ 対象顧客

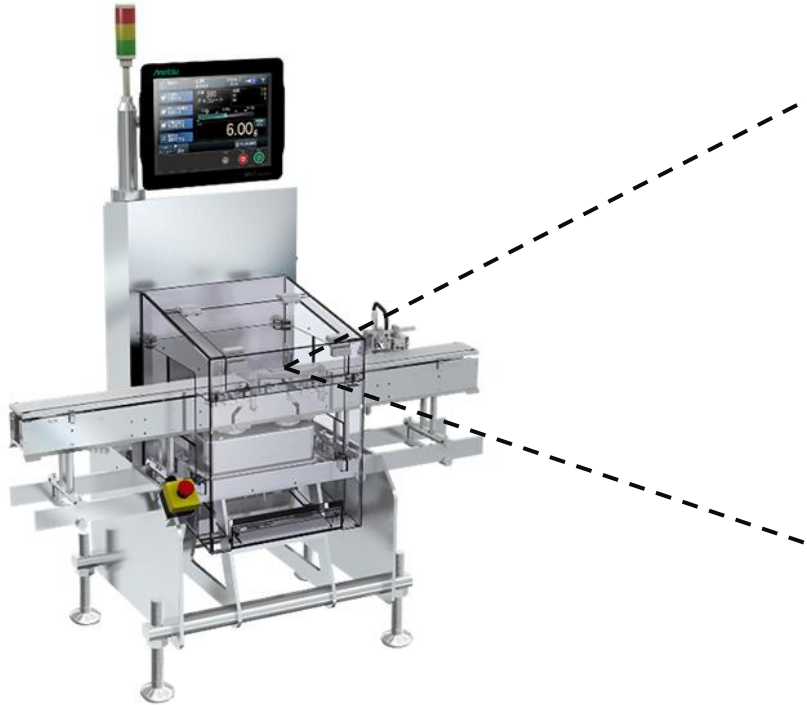
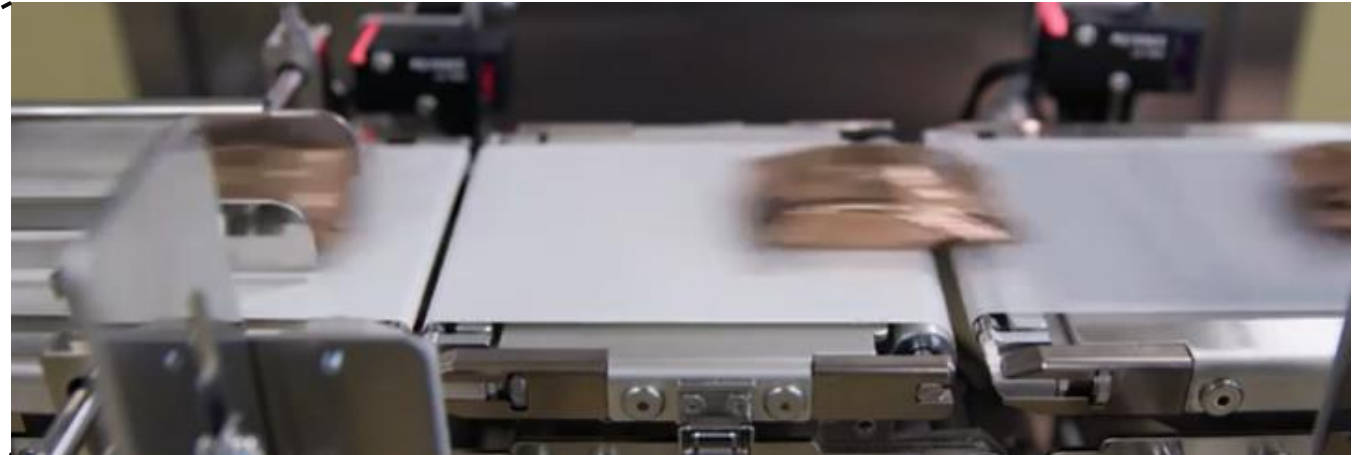
- ・製薬会社

* 当社調査結果による

4-7. 軽量品の超高速計量ソリューション

高速・高精度を極限まで追求した重量選別機

オートチェッカ（重量選別機）KWA7000シリーズ



600個/分→**1,000個/分**（世界最高クラスの選別スピード*）

■ 特徴

- ・ 最高選別能力1,000個/分、最高選別精度 $\pm 0.006\text{g}$ を実現*

■ 対象顧客

- ・ 菓子メーカー

* 当社調査結果による

5. ESGへの取り組み

5-1. サステナビリティ経営

5-2. 環境への取り組み

5-3. 社会・従業員に対する取り組み

5-4. コーポレートガバナンス

5-1-1. 企業理念とサステナビリティ方針

共に持続可能な未来づくりを

2021年4月、アンリツは2030年に向けて、新たな経営ビジョン、経営方針を掲げました。これに合わせ、サステナビリティ方針も改定しました。これらの理念、ビジョン、方針を基に社員一人ひとりが行動に移し、ステークホルダーの皆さまと共に、持続可能な未来づくりに挑んでいきます。

企業理念



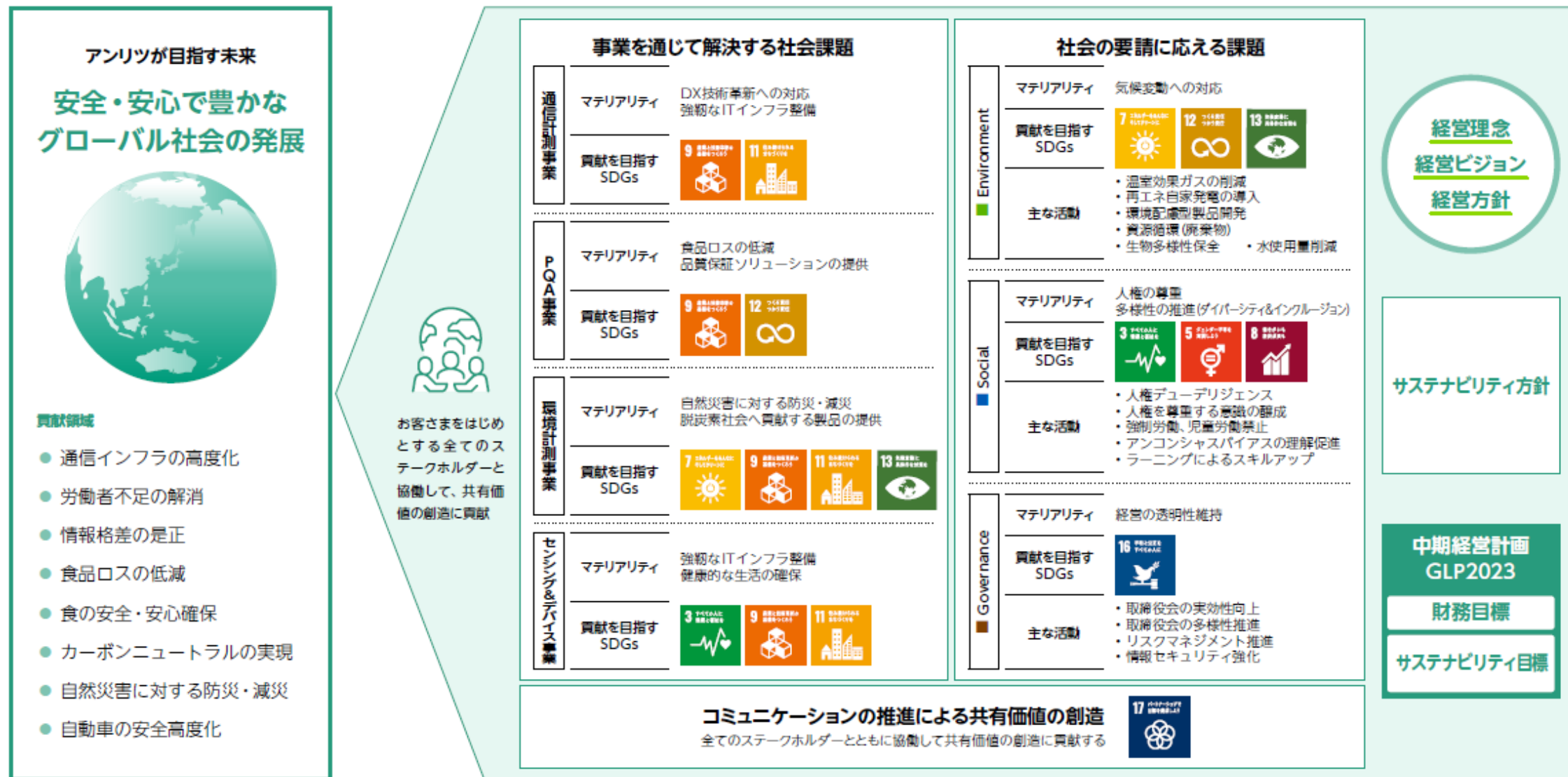
サステナビリティ方針

私たちは「誠と和と意欲」をもってグローバル社会の持続可能な未来づくりに貢献することを通じて、企業価値の向上を目指します。

- 1 長期ビジョンのもと事業活動を通じて、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献します。
- 2 気候変動などの環境問題へ積極的に取り組み、人と地球にやさしい未来づくりに貢献します。
- 3 すべての人の人権を尊重し、多様な人財とともに個々人が成長し、健康で働きがいのある職場づくりに努めます。
- 4 高い倫理観と強い責任感をもって公正で誠実な活動を行い、経営の透明性を維持して社会の信頼と期待に応える企業となります。
- 5 ステークホルダーとのコミュニケーションを重視し、協力関係を育み、社会課題の解決に果敢に挑んでいきます。

改定 2021 年 4 月

5-1-2. アンリツのサステナビリティ経営



5-1-3. 中期経営計画 (GLP2023) におけるサステナビリティ目標 (SDGs)

目標・取組

GLP2023:KPI

E

環境

温室効果ガス削減に向けた 長期計画と取組

- 温室効果ガス (Scope1+2) : 2015年度比23%削減
- 温室効果ガス (Scope3) : 2018年度比13%削減
…2030年度で30%削減

再生可能エネルギーの自家発電 比率の向上(PGRE 30)

- 自家発電比率 : 13%以上
… 2030年ごろまでに30%程度まで高める

S

社会

ダイバーシティ経営の推進

- 女性の活躍推進 : 女性管理職比率15%以上
- 高齢者活躍推進 : 70歳までの雇用及び新処遇制度確立
- 障がい者雇用促進 : 職域開発による法定雇用率2.3%達成

グローバルなCSR調達の推進

- サプライチェーン・デューデリジェンスの強化 :
3年累積10社以上
- CSR調達に係るサプライヤへの情報発信2回/年以上、
教育1回/年以上

G

ガバナンス

グローバルなガバナンス力向上

- 取締役会の多様性の推進、社外取締役比率50%以上

海外子会社の内部統制構築推進

- 全海外子会社が統制自己評価 (CSA) の基準を満たす

5-2-1. 環境、気候変動への取り組み方針

アンリツグループは、2050年カーボンニュートラル実現を目指し、科学的知見と整合した温室効果ガス排出量削減（SBT）を強化し、エネルギー消費削減、再生可能エネルギーによる自家発電比率向上、再生エネ電力購入や取引先さまとの協働、製品の消費電力低減など積極的に取り組みます。

TCFD対応

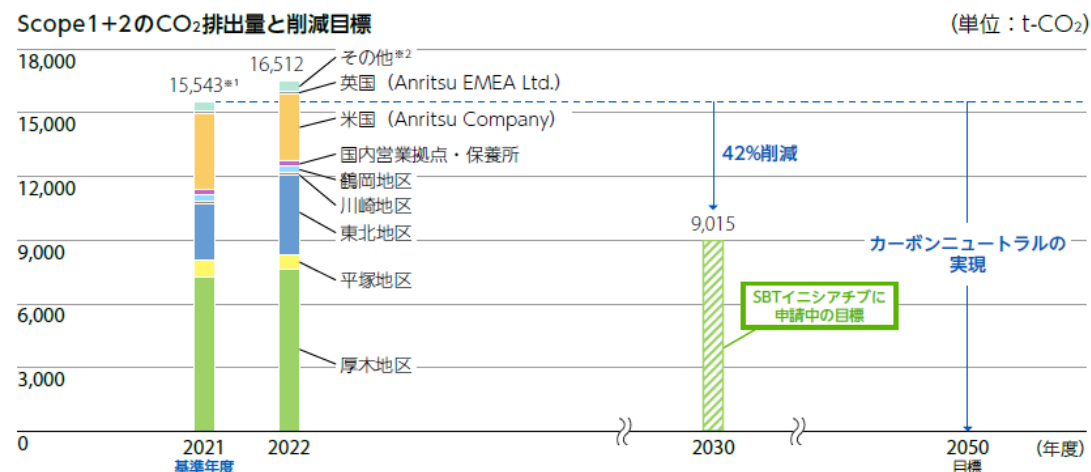
アンリツは、2021年6月30日、TCFDの提言に賛同しました。TCFD提言に沿った開示（ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標）は、賛同前の2020年から行っています。今後も気候変動への取り組みとTCFD提言に基づく情報開示に真摯に取り組んでいきます。

Race To Zero への参加

2022年12月に、2050年までに事業活動に伴う温室効果ガス排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラルを目指す宣言を行い、UNFCCC（国連気候変動枠組条約事務局）のRaceTo Zero に参加しました。これに対応するため、2030年をターゲットとする中期目標を下記の通り見直しました。

Scope1+2：2030年度までに2021年度比で42%削減（従来は、2015年度比で30%削減）

Scope1 + 2 のCO₂排出量と削減目標



5-2-2. Anritsu Climate Change Action PGRE 30

PGRE 30：2018年度の電力消費量を基準に、再生可能エネルギーの一つである太陽光発電設備の導入を進め、2030年頃までに太陽光自家発電比率を0.8%から30%程度まで高める
(アンリツ独自の取組)

2020年度：米国カリフォルニア州工場に1,100 kWの太陽光発電設備が10月から稼働

2022年度：東北地区の東北アンリツ第二工場に1,100kWの太陽光発電設備を増設、2023年1月から稼働
容量2,400kWh（出力400kW）の大容量蓄電池を用いた蓄電設備を導入、2023年6月から稼働



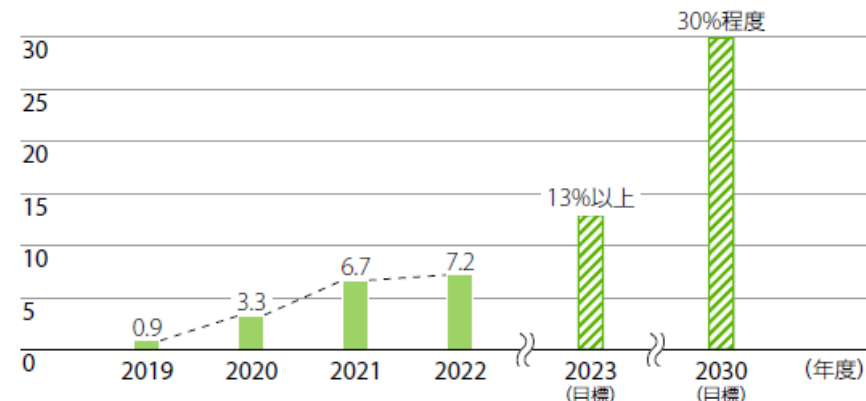
東北地区の太陽光発電設備(左)と蓄電設備(右)

※アンリツ気候変動対策活動 PGRE 30はPrivate Generation of Renewable Energy（再エネ自家発電）の略であり、「30」は達成時期の2030年頃と自家発電比率目標値の30%程度を意味します。

太陽光自家発電量と自家消費量 (単位：MWh)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
発電量	241	246	892	1,791	1,941
消費量	225	239	891	1,790	1,929

PGRE 30太陽光自家発電比率 (単位：%)



5-3-1. 働き方変革と女性社員の活躍推進

働き方変革

経営戦略の重点施策として定める「働き方改革」実現に向け、在宅勤務制度の導入、育児や介護などによる在宅勤務日数拡大、男性の育児休業利用推進、育児や介護などのライフイベントに応じて柔軟な勤務が可能な管理職コースの新設など、働き方やキャリアの多様化に向けたさまざまな施策を行っています。当社は2015年、2018年に続き厚生労働大臣から「子育てサポート企業」と認定され、2020年に3回目の「くるみんマーク」を取得しています。

2022年度は、男性の育児休業利用推進のため、4週間の育児休業取得者に対し給与を実質100%補償する制度を導入しています。男性も当たり前に育児休業を取得できる環境づくりに努めています。

女性社員の活躍推進

女性が生活と仕事を両立しながら活躍し、より直接的に事業の成長と企業価値向上に関与できるよう、採用活動・キャリア形成/継続に注力しています。2022年度から自分のライフステージ、ライフスタイルに合わせて働くことができる新しい管理職コースを新設しました。妊娠、出産、育児期間中のテレワーク制度新設とも合わせて、ライフワークバランスをより重視したキャリア形成が可能となります。管理職に占める女性の割合は、2022年度末で、国内3.1%、グローバル連結10.5%となっています。なお、国内においては2023年4月1日付けで5名の女性管理職が増え、国内女性管理職比率が4.0%となりました。

第6期次世代育成支援行動計画（計画期間：2020年4月1日～2024年3月31日）

目標	対策	実施事項
働き方の見直しにむけた労働環境を整備する	ライフワークバランス向上のため、働き方の見直しにむけた環境の整備を図る	2020年4月～多様な働き方を選択できる制度の検討（在宅勤務等）
育児関連制度の見直しおよび充実について企画・検討・実施する	ライフワークバランス向上のため、休暇・休職を取得しやすい環境の整備を図る	2020年4月～男性が育児休職を取得しやすい環境整備および促進

女性の管理職比率（女性管理職数÷全管理職数）

（単位：％）

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
日本	1.0	1.1	1.8	2.3	2.8	3.1
米州	23.0	20.2	18.3	17.9	21.6	17.4
EMEA	22.1	23.5	21.6	24.2	20.3	20.3
アジア他	21.6	24.1	23.4	24.0	23.7	22.3
グローバル連結	9.9	10.5	10.4	10.8	10.9	10.5

GLP2023での目標

- ▶ CSR調達調査件数を3年間累積10社以上実施するとともに、対象地域（主にアジア）の拡大を図る。
- ▶ 取引先さまに対して3カ年のプログラムでCSR調達に関わる情報発信、教育活動を行う。これによりアンリツの取り組みを浸透させる。
- ▶ グリーン調達のさらなる推進のため認定取引先比率の向上を図るとともに、環境に関わる教育を通じて、アンリツ起点の環境に配慮したサプライチェーンを構築する。

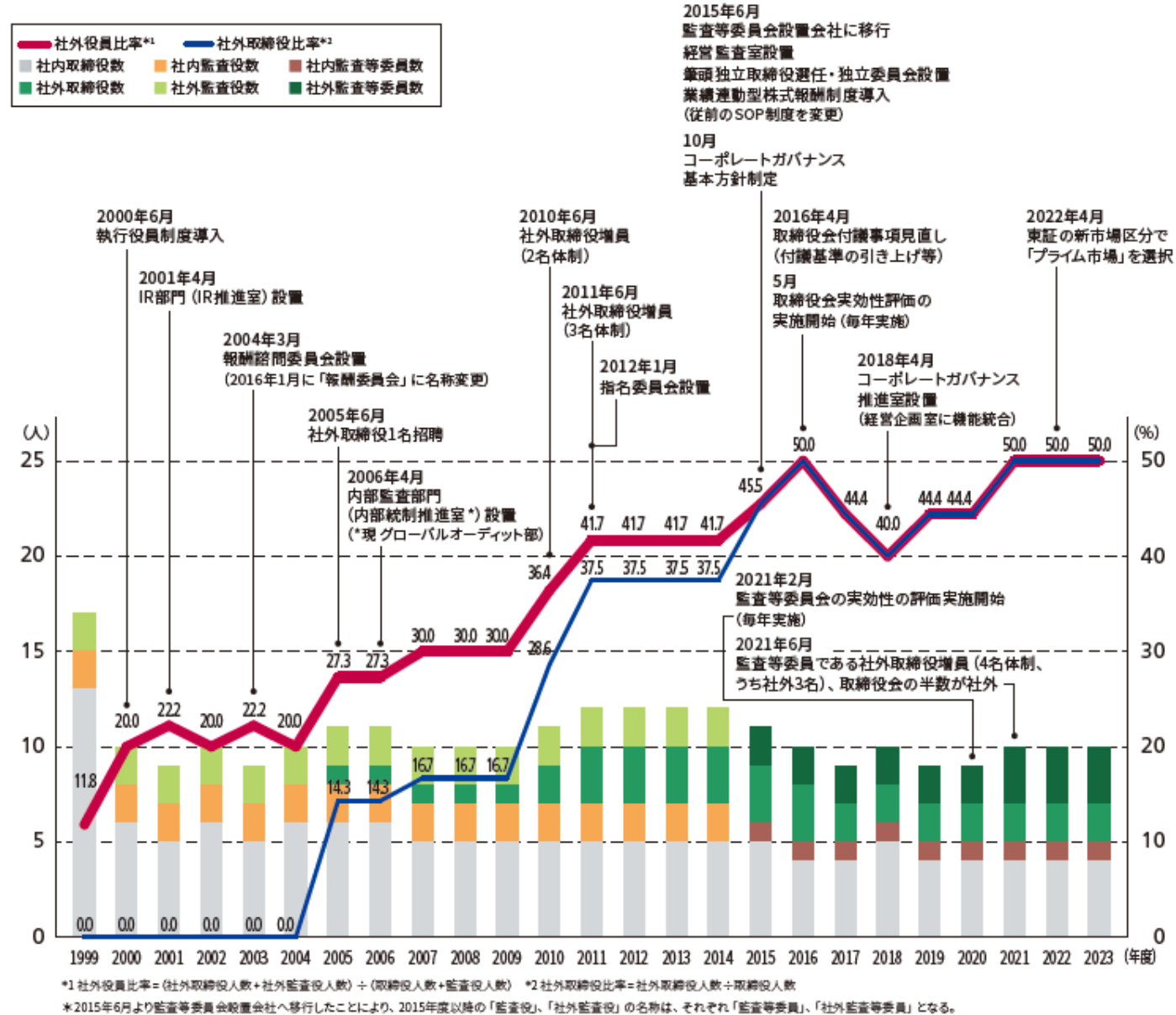
CSR調達アンケートの実施

アンリツは、新規に取引先の口座を開設する際に、信用状況の調査、品質管理・環境管理調査、工場調査などを行っています。既存の取引先に向けては、CSR調達ガイドラインへの取り組み状況を確認し、人権、労働・安全衛生、環境、公正取引、倫理、品質・安全性、情報セキュリティなどの取り組みを自己評価いただくアンケートを実施しています。近年重要性が高まっているサプライチェーン上の人権については、「強制的な労働の禁止」「児童労働の禁止」「若年労働者への配慮」「労働時間への配慮」「適切な賃金と手当」「非人道的な扱いの禁止」「差別の禁止」「結社の自由、団体交渉権」について確認しています。2022年度は、422社へCSR調達アンケートを実施し、363社から回答を受領しました（回答率86.0%）。

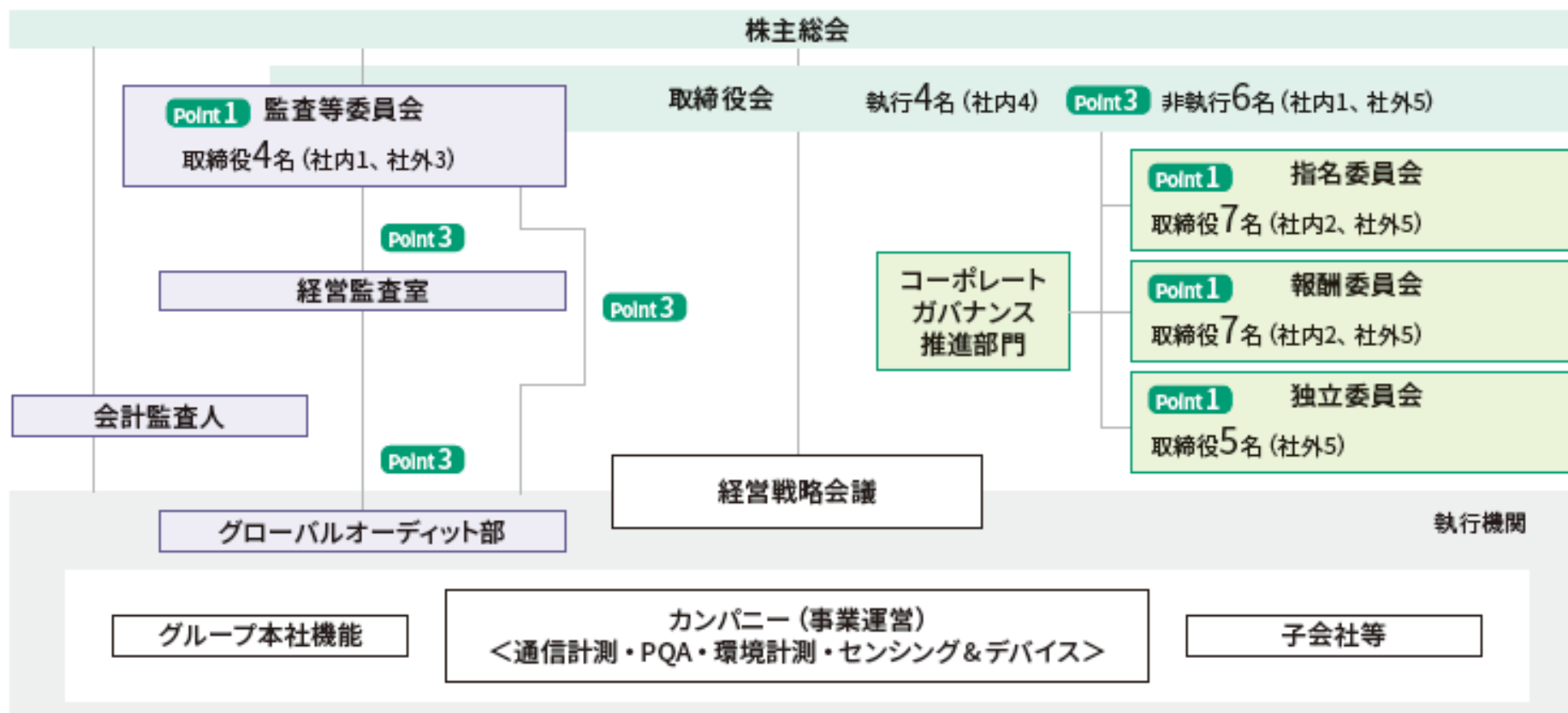
デューデリジェンスの実施

GLP2023（2021年度から2023年度）では累計10社以上の監査を行うことを目標としています。2022年度は、日本、香港、台湾の取引先6社に対してリモートで現地調査を行い、累計12社となりました。いずれの取引先も人権・労働、安全衛生について重大なリスクがないことを確認しました。これまで実施したCSR調達調査と現地インタビューにおいても、コンプライアンスに違反している取引先はありませんでした。

5-4-1. コーポレートガバナンス強化の取り組み



5-4-2. コーポレートガバナンス体制と特長



(2023年7月1日現在)

Point1 経営の透明性向上

Point2 適切かつタイムリーな情報開示

Point3 経営に対する監督機能の強化

Point3 経営人財の育成

* アンリツは監査等委員会設置会社を採用しています。

5-4-3. 取締役と各委員会の構成

監査等委員会および任意の諮問委員会の構成

	監査等委員会	指名委員会	報酬委員会	独立委員会
構成	   	      	      	    

 社内取締役  社外取締役 ☆委員長

取締役会・諮問委員会などの開催実績(2022年度)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
BD	BD	BD	BD	BD	BD	BD	BD	BD	BD	BD	BD
AS	AS	BD	AS	C	AS	AS	N	BD	AS	N	AS
N	AS	AS	FD			FD		AS	I		C
FD		AS							I		I
									FD		

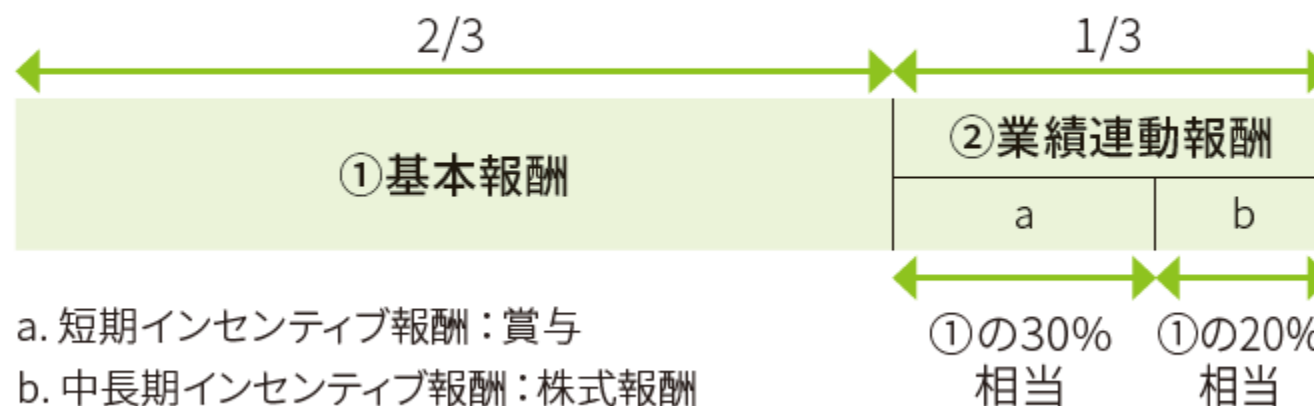
BD 取締役会 AS 監査等委員会 C 報酬委員会 N 指名委員会 I 独立委員会 FD フリーディスカッション

5-4-4. 役員報酬体系

当社の役員報酬は、基本報酬と業績連動報酬で構成されており、業績連動報酬は、基本報酬の50%相当額としています。

業績連動報酬は、当社の経営ビジョンの実現に向けて各人が業績目標の達成に邁進していくための動機づけに資することを狙い、短期インセンティブ報酬（賞与：基本報酬の30%相当額）と中長期インセンティブ報酬（株式報酬：基本報酬の20%相当額）のそれぞれに応じて、当社にふさわしい指標を取り入れています。短期インセンティブ報酬は、連結純利益に基づいて総支給額が決定し、担当職域部門などの売上高、営業利益およびESG/SDGs目標の達成度などの指標により個別支給額が決定します。中長期インセンティブ報酬は、株主の皆さまと利益意識を共有し、中長期的な視点での業績や株式価値を意識した経営を動機づける制度設計となっています。

Ⅱ 役員の報酬体系イメージ

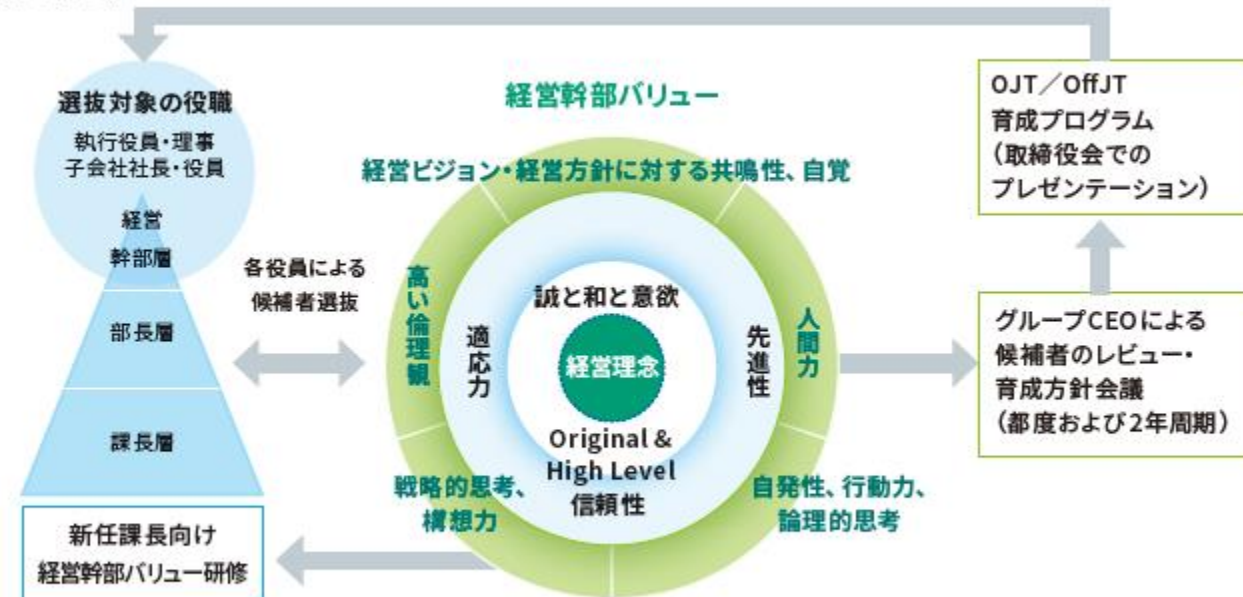


役員報酬のイメージ

5-4-5. 後継者育成プログラム

アンリツは、次世代経営幹部育成プログラムを設け、次期経営者候補の育成に努めています。2030年の目指す姿実現の先頭に立つ経営リーダーを選抜するために、候補者の観察軸として「経営幹部バリュー」（「経営ビジョン・経営方針に対する共鳴性、自覚」「人間力」「自発性、行動力、論理的思考」「戦略的思考、構想力」「高い倫理観」）を定めています。候補者は、都度および2年周期で「経営幹部バリュー」に関してグループCEOのレビューを受けています。評価状況を踏まえて設定されたOJT/OffJT育成プログラムに従い、次世代幹部となるための経験を積んでいきます。

■ 経営幹部の選抜・育成システム



6. 2024年3月期第3四半期 連結決算概要

6-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶ 前年同期比 受注：5%減、売上：5%減収、営業利益：35%の減益、当期利益：37%の減益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	840	800	△ 40	△ 5%
売上高	817	778	△ 39	△ 5%
営業利益	80	52	△ 28	△ 35%
税引前利益	88	56	△ 32	△ 36%
当期利益	63	39	△ 24	△ 37%
当期包括利益	90	68	△ 22	△ 25%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

6-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

▶ 通信計測とPQAは前年同期比減収減益、環境計測は増収増益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
通信計測	売上高	548	509	△ 39	△ 7%
	営業利益	78	49	△ 29	△ 37%
PQA	売上高	180	177	△ 3	△ 2%
	営業利益	8	7	△ 1	△ 8%
環境計測	売上高	38	49	11	30%
	営業利益	△ 4	0	4	-
その他	売上高	51	43	△ 8	△ 15%
	営業利益	5	4	△ 1	△ 19%
調整額	営業利益	△ 8	△ 9	△ 1	-
合計	売上高	817	778	△ 39	△ 5%
	営業利益	80	52	△ 28	△ 35%

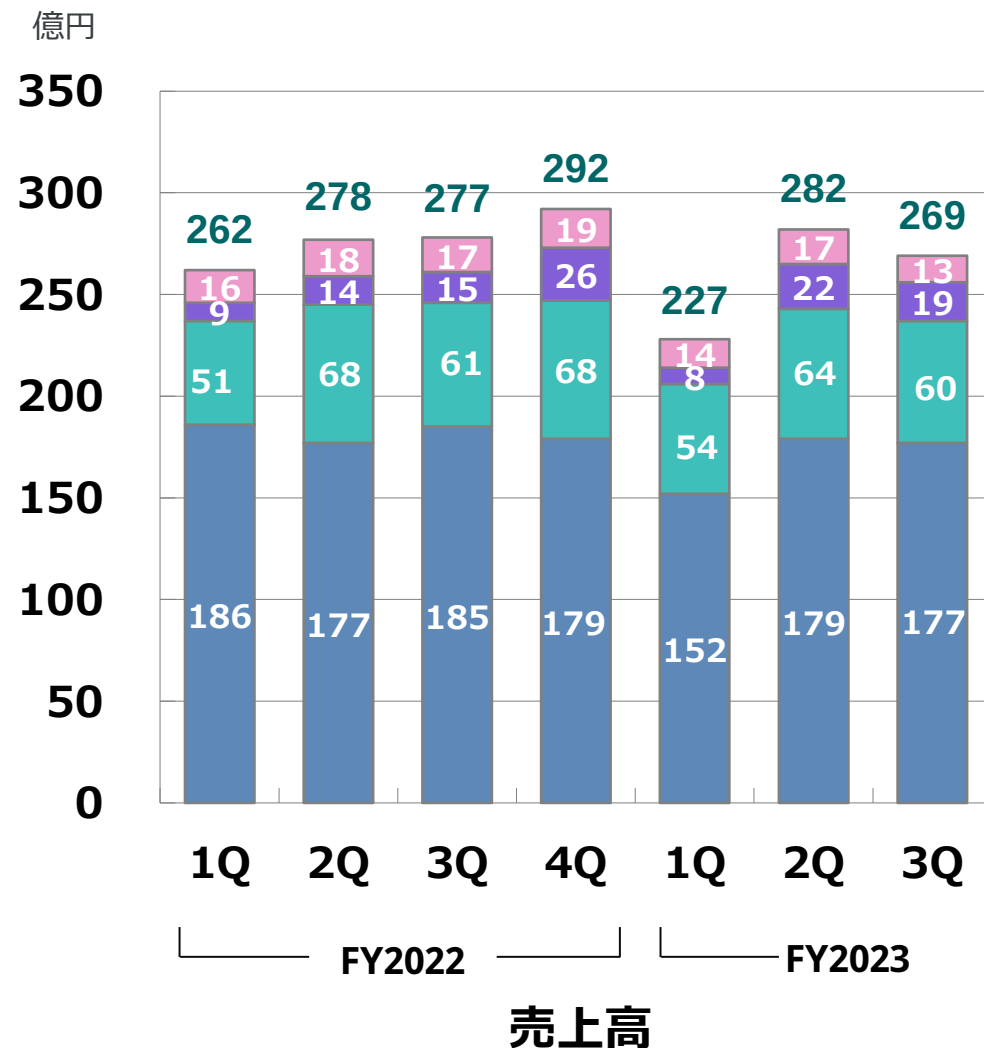
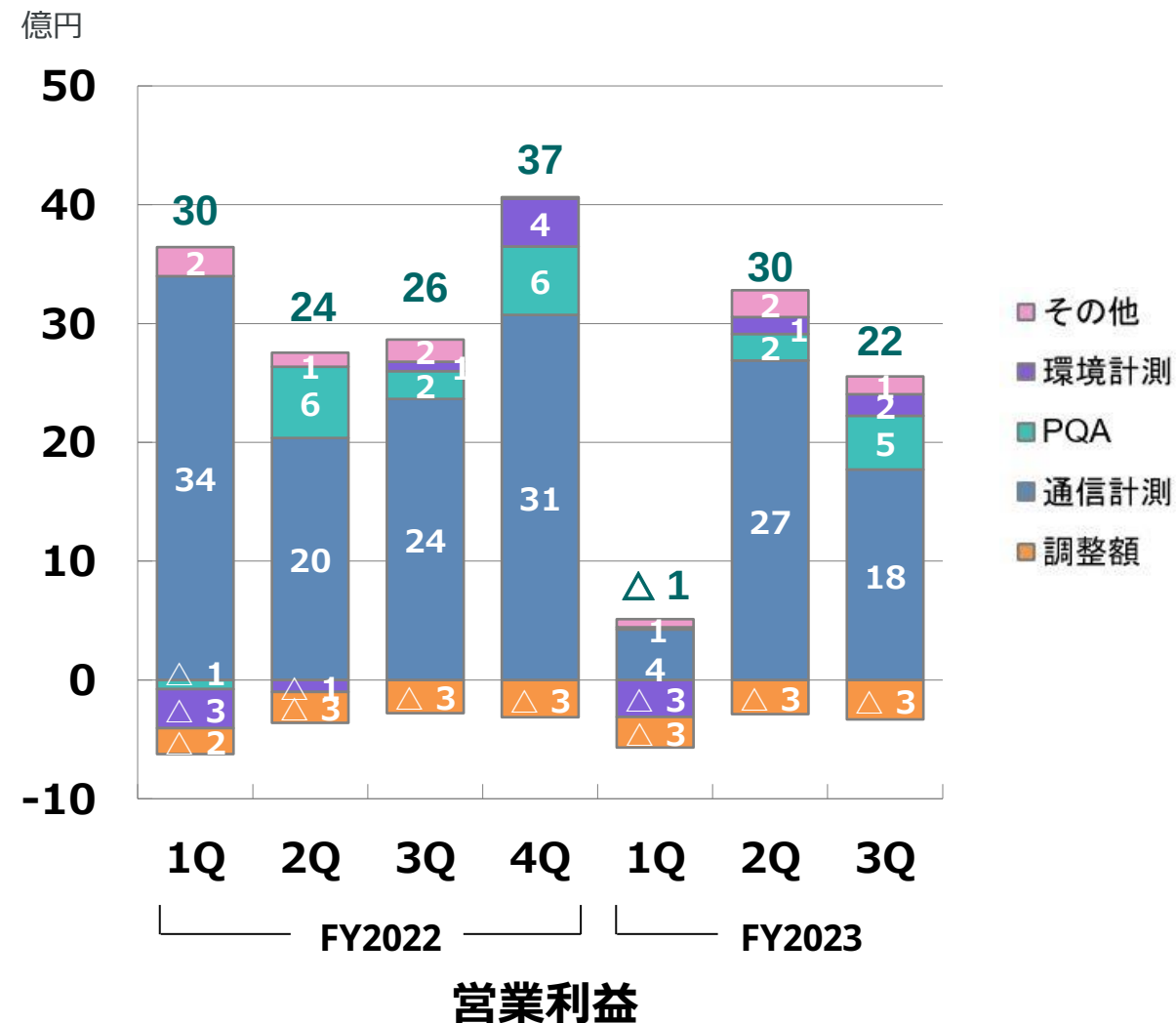
(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

PQA : Products Quality Assurance

6-3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 3Q(10-12月)営業利益率：通信計測 10.0%、PQA 7.6%、環境計測 9.8%



(注) 値はそれぞれで四捨五入

セグメント 2024年3月期（4-12月）の状況

➡ 通信計測：世界的な物価、人件費上昇等で止まっていた設備投資が再開も、投資への慎重姿勢が継続
固定ネットワークの高速化需要は順調

モバイル	アメリカと台湾にて5G開発市場の投資判断に遅れ
------	-------------------------

ネットワークインフラ	グリーンデータセンターや生成AI専用のデータセンターの構築が加速
------------	----------------------------------

エレクトロニクス	6G基礎研究がスタート
----------	-------------

アジア他・日本	中国の5Gスマホ開発市場の投資停滞
---------	-------------------

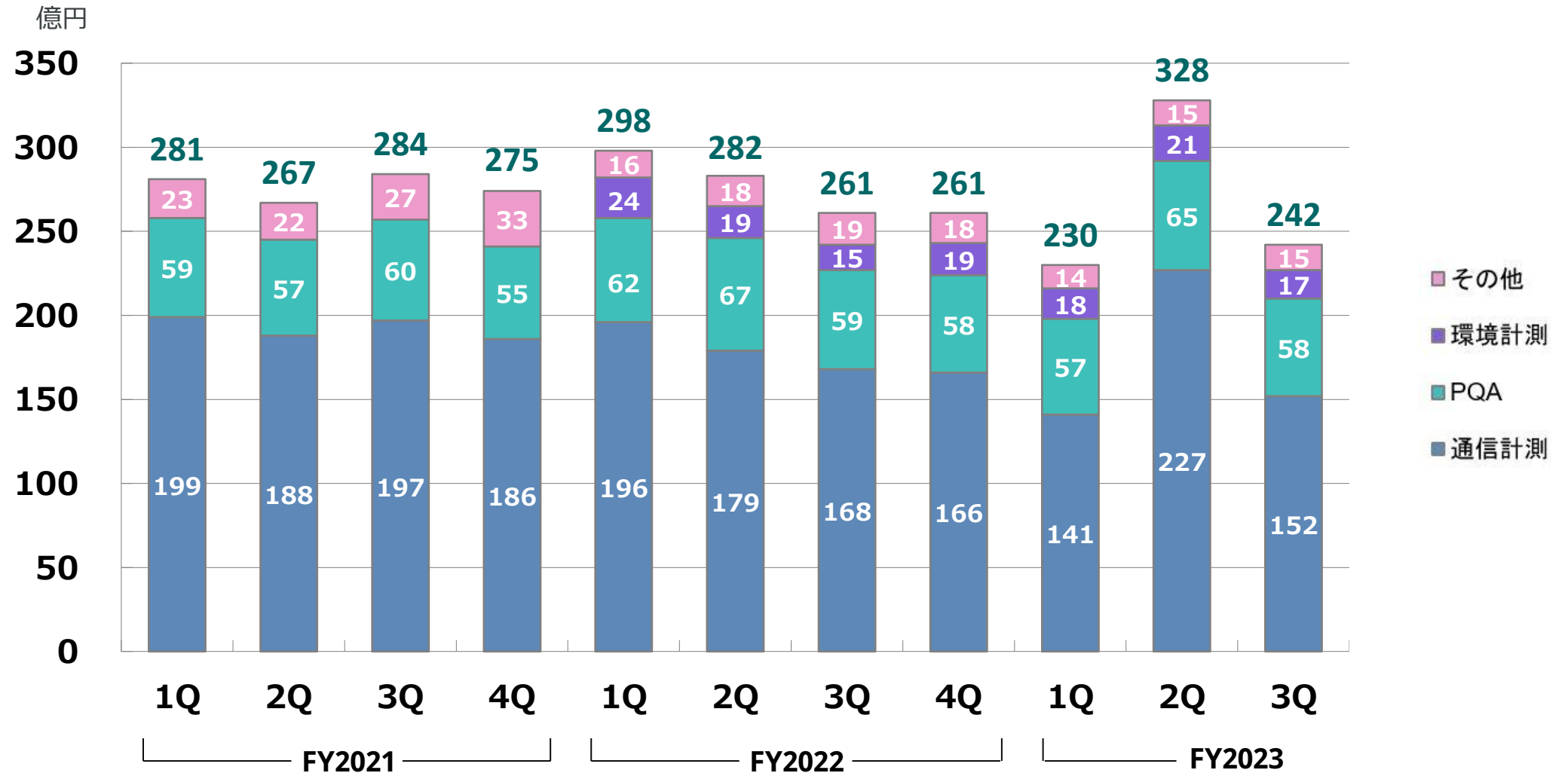
アメリカ	固定ネットワーク高速化への投資は順調 生成AI等の好調によりデータセンター市場が活況
------	---

➡ PQA：欧米の食肉市場は減速も、加工食品市場が堅調

➡ 環境計測：EV・バッテリー向け試験装置の需要が堅調

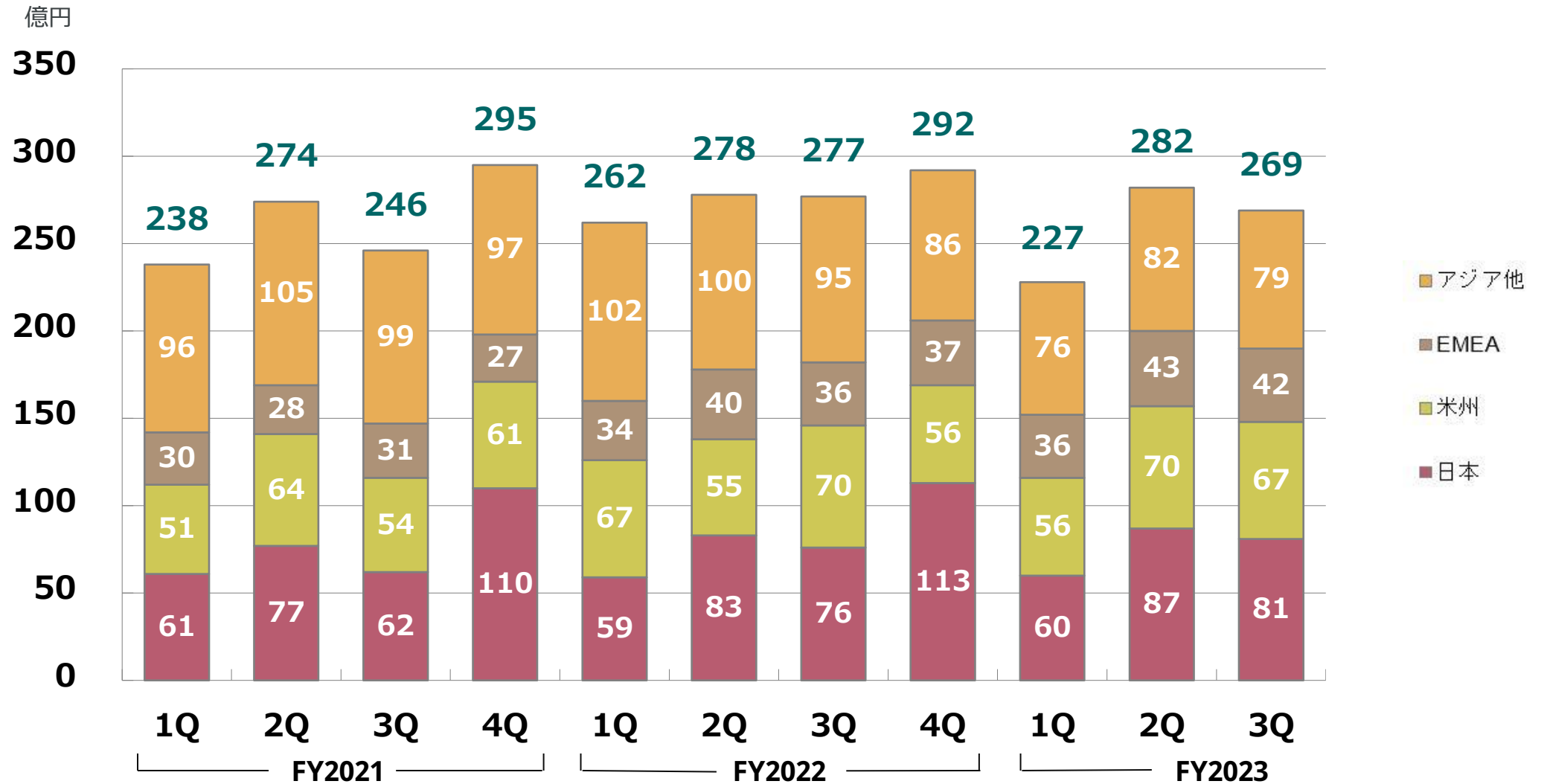
6-5. 受注高推移

▶ 前年同期比 通信計測：10%減、PQA：3%減、環境計測：17%増



(注) 値はそれぞれで四捨五入

6-6. 地域別売上高推移



(注) 値はそれぞれで四捨五入

6-7. キャッシュフロー

▶ 営業CFマージン率 13.3%

FY2023 (4-12月)

- ①営業CF： 104億円
- ②投資CF： △27億円
- ③財務CF： △62億円

フリーキャッシュフロー
(①+②)： 77億円

現金同等物期末残高
397億円

有利子負債高
73億円

(注) 値はそれぞれで四捨五入

内訳

(単位：億円)

その他	27		
売上債権	10		
減価償却	45		
税引前利益	56		
税金	△20	設備投資 △19	配当金 △53
仕入債務	△14	その他 △8	
			その他 △9
営業CF 104		投資CF △27	財務CF △62

6-8. 2024年3月期 通期業績予想（連結）

- ▶ 2023年10月30日に公表した通期業績予想を下記のとおり修正
 配当は、期初計画とおり1株当たり年間40円を予定（期末配当：20円）

（単位：億円）

			2023/3期	2024/3期			
			前期実績	通期予想		前期比	
				10/30発表	今回発表	増減額	増減率(%)
売上高			1,109	1,115	1,105	△ 4	△ 0%
営業利益			117	109	101	△ 16	△ 14%
税引前利益			124	114	106	△ 18	△ 15%
当期利益			93	85	80	△ 13	△ 14%
	通信計測	売上高	728	710	700	△ 28	△ 4%
		営業利益	109	93	85	△ 24	△ 22%
	PQA	売上高	248	260	260	12	5%
		営業利益	13	16	16	3	20%
	環境計測	売上高	64	80	80	16	25%
		営業利益	1	5	5	4	872%
	その他	売上高	69	65	65	△ 4	△ 6%
		営業利益	6	5	5	△ 1	△ 11%
	調整額	営業利益	△ 11	△ 10	△ 10	1	-

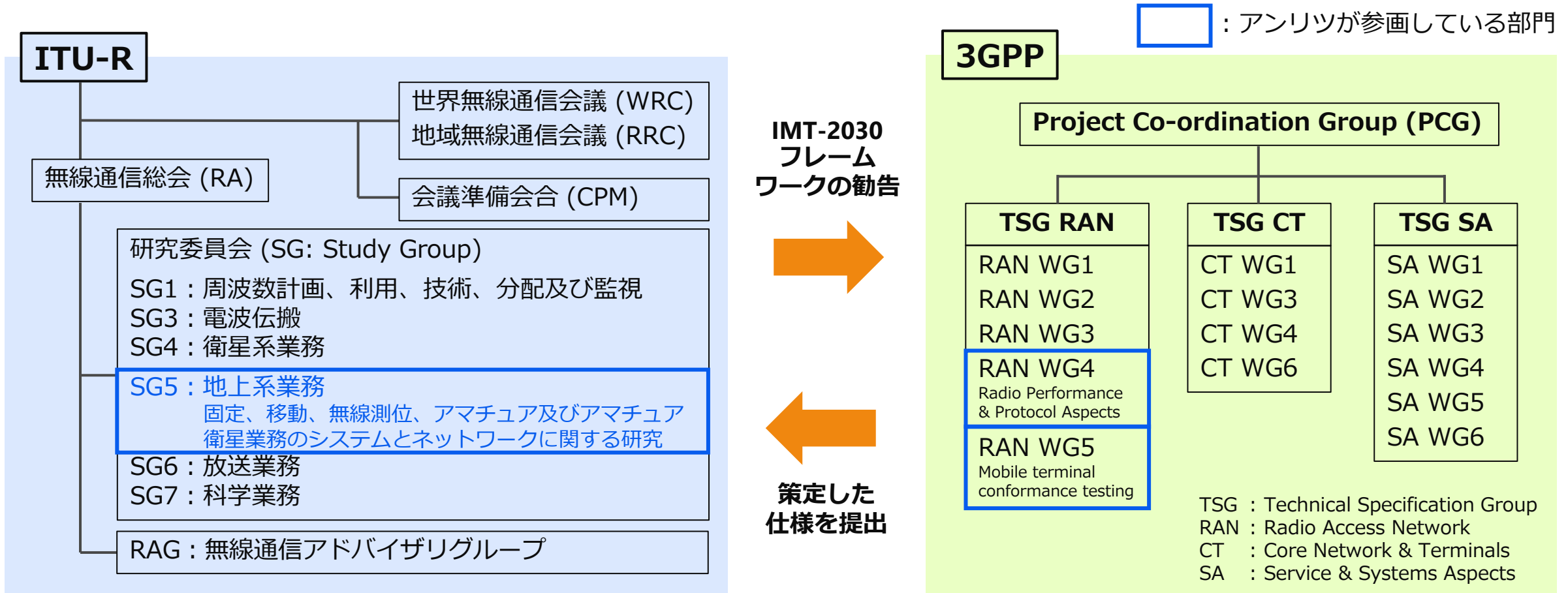
（参考） FY22 実績為替レート : 1米ドル135円、1ユーロ141円
 FY23 1Q-3Q実績為替レート : 1米ドル143円、1ユーロ155円
 FY23 4Q想定為替レート : 1米ドル140円、1ユーロ150円

（注） 値はそれぞれの欄で四捨五入（前期比増減額を除く）

Appendix

A-1. ITU-RのSG5（第5研究委員会）に加盟

3GPPに加えてITU-Rに参画することで、IMT-2030（6G）の規格策定に貢献
加えて、技術的課題や要件を早期入手することで、高品質な測定ソリューションをタイムリーに提供



A-2. ESG指標への組み入れ状況（1/2）

- GPIF（Government Pension Investment Fund、年金積立金管理運用独立行政法人）が選定した4つのESG指数すべてに採用されています。

FTSE Blossom Japan Index

ロンドン証券取引所グループの完全子会社FTSE Russellが設計した指数で、環境、社会、ガバナンスへの対応力が優れた日本企業が選定されます。



S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数

S&Pダウ・ジョーンズ・インデックス（米国）が開発したグローバル環境株式指数。環境評価を行うTrucost社による炭素排出量データをもとに、TOPIXの銘柄の中から、同業種内で炭素効率性が高い（温室効果ガス排出量/売上高が低い）企業、温室効果ガス排出に関する情報開示に着目して構成銘柄の比重を決める指数です。



MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数

MSCI社（米国）が開発したESG総合型の指数で、時価総額上位700銘柄（MSCIジャパンIMIトップ700指数）業種内でESG評価が高い企業が選定されます。

2021 CONSTITUENT MSCIジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数

THE INCLUSION OF ANRITSU CORPORATION IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF ANRITSU CORPORATION BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

MSCI日本株女性活躍指数（WIN）

MSCI社（米国）が開発した指数で、時価総額上位500銘柄（MSCIジャパンIMIトップ500指数）の中から、業種内で性別多様性に優れた企業が選定されます。

2021 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数 (WIN)

THE INCLUSION OF ANRITSU CORPORATION IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF ANRITSU CORPORATION BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

A-3. ESG指標への組み入れ状況（2/2）

- さらに下記のESG指数に採用されています。

FTSE4Good Index Series

ロンドン証券取引所グループの完全子会社FTSE Russellが開発した世界的なESG投資指数です。同社の環境、社会、ガバナンス評価基準を満たした企業を選定されます。



SOMPOステナビリティ・インデックス

損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社（日本）が運用するESG指数で、SOMPOリスクアマネジメント株式会社が実施する「ぶなの森環境アンケート」と株式会社インテグレックスが実施する「インテグレックス調査」の結果で選定される銘柄です。

2023



Sompo Sustainability Index

A-4. 外部評価

- ESG（環境、社会、ガバナンス）に対する外部評価は下記の通りです。

CDP

国際的な非営利団体CDPが環境情報の開示を求めて環境調査の質問状を世界の主要企業に送り、回答を分析・評価して投資家に開示しています。アンリツは、どのように気候変動によるリスクや影響を管理しているかが出来ているレベルのスコア「B」の評価を得ました。



環境コミュニケーション大賞「気候変動報告優秀賞」

環境省と一般財団法人地球・人間環境フォーラムが主催し、環境に関する優れたコミュニケーション活動を行っている事業者などを表彰する制度。「アンリツサステナビリティレポート2020」が第24回環境コミュニケーション大賞の環境報告部門において、「気候変動報告優秀賞」（地球・人間環境フォーラム理事長賞）を受賞しました。



健康経営優良法人2022

経済産業省と日本健康会議が主催する健康経営優良法人認定制度の大規模法人部門において、「健康経営優良法人2022」に認定されました。「健康経営優良法人」には5年連続で認定されています。



くるみんマーク認定

くるみん認定は、厚生労働省が仕事と子育ての両立支援に取り組んでいる企業を認定する制度です。アンリツは両立支援のための環境整備に継続して取り組んでおり、2015年、2018年に続き、2020年に3回目となる認定を取得し、3つ星がついたくるみんマークを付与されました。

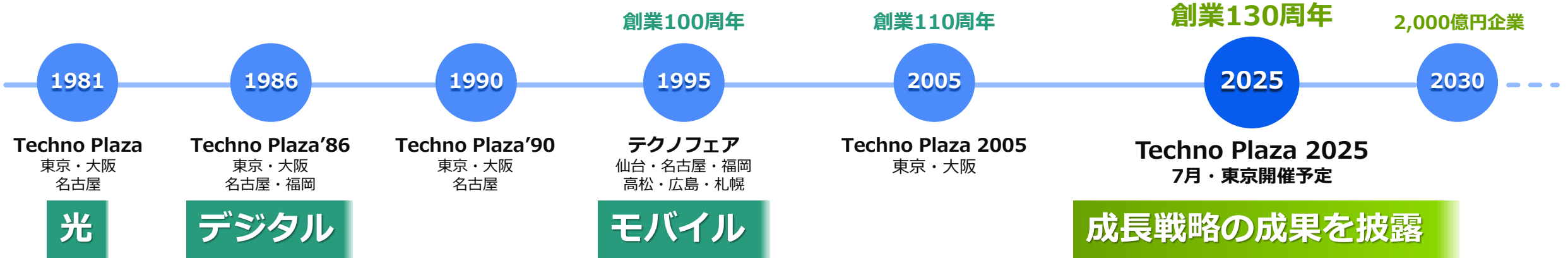


かながわサポートケア企業

神奈川県内に拠点をもつ企業等のうち、従業員の仕事と介護の両立を積極的に支援している企業の認証です。



A-5. Techno Plaza 2025



テーマ

Advancing Technologies for A Sustainable Future (仮)

業界をリードする先進的な「はかる」技術で持続可能な未来を創る

130年にわたり先端分野を切り開いてきたアンリツグループの英知と想像力を発揮し、2030年のビジョン実現に向けた成長を確かなものとする技術革新を加速。

次世代技術をリードする最新ソリューションと先端テクノロジーをグループ横断で一堂に展示し、市場におけるリーダーシップと持続可能な社会実現に向けた貢献を訴求。



